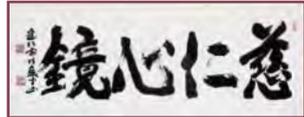




関西医科大学 広報

Kansai Medical University Public Relations



建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

平成21年度
入学式

「交野の原」
牧野
で誓い
新たな
115人



希望抱き
医くすしの道へ

2.3面に関係記事

新入生を代表して宣誓する中井慈人さん

CONTENTS

入学式挙行	2	学事	18
大学院入学宣誓式挙行	4	医療安全管理センター	23
法人 平成21年度事業計画(要旨抜粋)	5	病院	24
退任の挨拶	8	卒後臨床研修センター	27
就任の挨拶	12	大学情報センター	28
職員研修	15	看護専門学校	29
大学	16	キャンパス ニュース	30

入学式挙行 「初心」「医師の使命感」忘れないで

平成21年度本学入学式が4月4日(土)午後1時から教養部大講堂で挙行政され、今年度から医師不足の地域・診療科に勤務する医師の育成を目的とした特別枠入学者10名を含む115名(男66名、女49名)の関西医大生が誕生しました。

式には、山下敏夫学長、塚原 勇理事長はじめ来賓の大阪医科大学・植木 實学長や教職員、保護者ら多数が臨席の下、本学混声合唱団コールクライスと共に学歌斉唱、新入生紹介のあと、山下学長から告辞が述べられました。

続いて、新入生を代表して中井慈人さんが宣誓、これに対して在校生・竹内由起さんから歓迎の言葉が述べられました。式当日は、あいにくの雨模様となりましたが牧野キャンパス内の桜は満開、医学生としての一步を踏みだし、緊張の中にも希望にあふれた新入生たちの顔・顔・顔。

入学式終了後には、専門部学生生活やカリキュラム説明会が第一教室で行われ、すべての日程を終えました。

山下学長告辞

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。本日男子66名、女子49名計115名の皆さんを迎えて、平成21年度の入学式を挙行政できますことは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、まことに大きな喜びであります。ご臨席をいただきました大阪医科大学植木 實学長をはじめご来賓各位に厚くお礼を申し上げます。見事に難関を突破されての合格であり、ご本人の努力と、その彼等の勉強と生活の支援を続けてこられたご家族や関係の方々から心からお祝いを申し上げます。

さて皆さんは今日の入学式を迎えて、医師になるためのまさに第一歩を踏み出されたこととなります。喜びとともに、これからの本学で始まる学生生活への大きな期待と、そして少しは不安も抱いておられることでしょう。そこで皆さんの母校となる関西医科大学はどういう大学か、歴史、現況、近い将来像などについてまずお話いたします。

本学は1928年に濱地藤太郎先生により大阪女子高等医学専門学校として創設されました。その後、1954年に男女共学制を採用して校名を関西医科大学と改めました。1960年には医学進学課程が設置されて、現在の6年課程の教育が行われるようになりました。卒業生総数は7,307名、うち4,899名が関西医科大学の卒業生であります。昨年は創立80周年を迎えたという歴史のある学校です。

次に本学の現況について述べてみます。本学は3年前に念願の新しい附属病院である枚方病院を京阪枚方市駅前に開院いたしました。この病院は施設、医療設備ともに日本有数の病院と自負できるものです。その結果、現在の本学の施設の体制は、ここ牧野に教養部が、京阪滝井駅前に大学本部、滝井キャンパス、滝井病院があり、そして枚方病院と京阪沿線に点在しています。以上がハード面といえる施設の現況です。一方ソフト面では本学の教育は、6年一貫教育に基づく極めて高度で、最新の教育システムを採用しています。また研究面に関しては、以前から文部科学省の研究費等も多くいただき、活発だとの評価をうけておりましたが、6年前にCOE、即ち世界的研究拠点の1つとして選定を受けて以来、「研究の関西医大」の名は定着したのではと思います。臨床は大阪の北東部の医療を着実にリードしてきましたが、高度医療機器を揃えた枚方病院の開院でさらにトップレベルの医療が行えるようになりました。本学はこの様



告辞を述べる山下学長

に、教育、研究、臨床で大変頑張っています。皆さんは本日から関西医大生です。どうぞ関西医大生であることに自信と誇りを持ってください。

近い将来のことにも少し触れておきます。京阪香里園駅の真前に新しく香里病院を現在建築中であり、来年8月には開院を予定しています。さらに枚方病院の横に大学本部や全てのキャンパスを統合した新しい学舎を建設し、遅くとも平成25年には完成させたいと考えています。確約はできませんが、皆さんの学生生活の後半には新学舎で学べるのではないかと思います。

さて少し目を外に向けてみましょう。昨年の後半に始まったアメリカの金融システムの破綻以来、日本を含む世界中の実体経済が急激に悪化し、100年来の大不況と世の中で騒がれていることはご存知のことと思います。今は正に激動の時期です。皆さんがこれから足を踏み入れる医療の世界も例外でなく、極端な低医療費政策の下、医師不足地域の拡大や、産科や救急医療の問題が毎日のようにマスコミを賑わし、事実わが国の医療崩壊は着実に進んできています。

皆さんは次のことをご存知ですか。国民総生産に占める医療費の比率をみますと、日本は先進30カ国中21位で、アメリカの約半分にしかすぎません。また人口当たりの医師数は、日本はこれも先進30カ国中27位と最下位に近いこと、それにもかかわらずWHOの医療レベル評価では日本が一番であること。これはどういうことかといえ、日本の医師は低賃金下、過重労働下の中、必死で医師という使命感に燃えて頑張ってきたということに他なりません。しかし、このことにも自ずから限界があり、現在の医療崩壊が始まろうとしているわけです。さすがに政府もこの状態を放置できないとして、今までの医師数抑制策を覆し、本年4月より医学部の定員を約10%増

員することを決めました。しかし漫然と増やすのではなく、社会のニーズに合わせて、将来医師不足の地域や診療科で働く医師を増やすという方針です。本学でもこれに対応して「医師不足地域・診療科」特別枠を新設し、4月からこの枠の10名の新入生を迎えることになりました。幸いにこの特別枠を望まれる方が第一志望、第二志望を合わせますと、全志願者の約70%という多数となり、皆さんがすでに医師としての高い使命感を持ってられることに喜びを感じました。この枠の方には特別セミナーなどの受講を義務付けますが、それ以外の一般の方も自由にこれらのセミナーに参加していただく予定です。この新しい試みを通して、社会のニーズに合った良医の育成がさらに進むものと期待しています。

さてこの入学を機に皆さんに是非とも言っておきたいことが4点あります。

皆さんはどうしてこの厳しい医学の世界に入ろうと思われたのでしょうか。おそらくは「病気で苦しんでいる人を1人でも救いたい」という気持ちではないでしょうか。そのためにはある程度の自己犠牲は覚悟されていると思います。言っておきたい第1は、この初心とさきほど来、言ってきました医師としての使命感を忘れないでほしいということです。

次に皆さんのこれまでの勉強方法を大きく変えてください。おそらく高校では与えられた知識を吸収するという受身の勉強、即ち暗記力中心であったかと思います。これから学ぶ医学知識の量は膨大で、丸暗記ではとてもやっていけません。また皆さんがこれから医療の第一線で働く時に求められるものは、患者さんを前にしての咄嗟の判断力や、生命そのものに関わる倫理観等です。与えられた知識を良く理解し、整理し、さらに自分で問題点を見つけ、自分で考えるという自学自習の習慣、さらには知識を使いこなす知恵を学んでください。

大学というところは皆さんの今までの、さらにこれからの長い人生の中で比較的自分の時間を自由にかつ有効に使うことができる場所です。この時期は、学問のみ



コーラスによる学歌斉唱

でなく、持っている才能や個性に磨きをかけ、さらに医師として将来要求される体力とコミュニケーション能力をつける絶好の時期です。本学にはたくさんのクラブ活動があります。是非クラブに入り、その活動を通じて、これらの能力を獲得し、そして多くの友人と素晴らしい人間関係を築いてください。ということが第3の点で、とても大切なことです。

第4は言わずもがなのことですが、医学生であると共に社会人であるという自覚を持って行動してください。まず挨拶をしましょう。これは礼儀の基本であり、医師としての出発点でもあります。もう1つ身だしなみには注意してください。本当の自由はきちんとした規律の中にこそあることを忘れないでください。

関西医科大学はバランスのとれた大変良い大学だと思っております。したがって皆さんは本当に良い大学に入ったと先輩の1人としても自信を持って言えます。選ばれた皆さんは関西医大を、そして日本の医学を背負ってくれるものと信じます。皆さんを心から歓迎し、ご活躍を期待しています。

健康に留意されて、関西医大人として誇りをもって、実り多い学生生活を送られますことを祈り、私の告辞いたします。本日は誠にありがとうございます。

平成21年度 医学部・新入生

インターネット上での氏名公開は控えさせていただきます

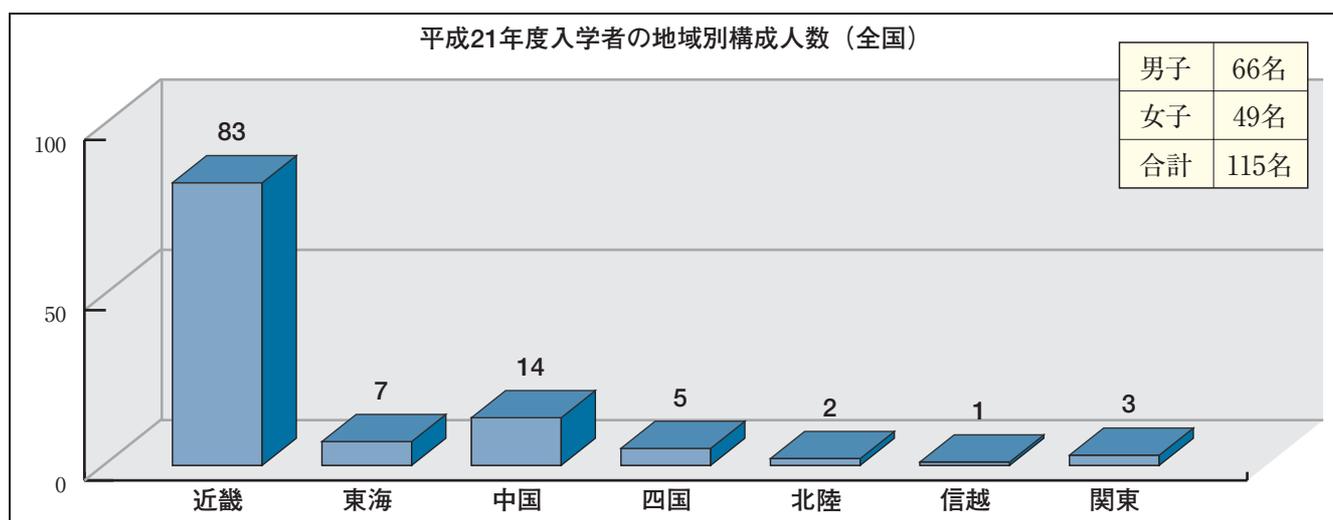
入学者地域別構成人数

平成21年度新入生は、男子66名、女子49名で、合計115名です。過去5年間の出身地域別入学者数を下表に、今年度の地域別入学者数をグラフにしてみました。

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
近畿	80	71	78	73	83
東海	9	10	8	12	7
中国	12	12	4	4	14
四国	1	2	4	4	5
北陸	0	3	2	3	2
信越	0	0	0	0	1
関東	0	3	1	3	3
九州	1	1	2	2	0
北海道	0	0	1	1	0
その他	0	1	2	1	0
計	103	103	102	103	115

平成21年度・近畿の府県別

府県名	入学者数
大阪	33
京都	14
兵庫	16
奈良	11
和歌山	6
滋賀	3
計	83



大学院入学宣誓式を挙

平成21年度本学大学院入学宣誓式が、4月6日(月)午後3時から専門部学舎大会議室において挙行され、山下



新入生を代表して宣誓する森田龍頼さん

敏夫学長による式辞、新入生を代表して森田龍頼さんの宣誓がありました。

本年度入学者は、以下の21名(男子17名、女子4名)です。

平成21年度 大学院入学者

岩城 隆二	高橋 雅也	福井 英人
大石 賢玄	谷村 裕嗣	三城 弥範
岡崎 はるか	辻 祥子	森田 龍頼
岸本 真房	辻本 悟史	安田 鐘樹
栗島 亜希子	林 謙治	山木 壮
清水 順一	兵 晃	山口 隆志
諏訪 梓	平林 雅人	由井 倫太郎

法人

平成21年度事業計画(要旨抜粋)

I. 法人全体概要

“慈仁心鏡”に示された建学の精神及び教育の理念に則り、中期経営目標“アクション2015 行動する関西医大”を達成するために、平成21年度は以下の事業を推進する。

本事業計画と平成21年度予算を指針として、経営改善を推進し経常収支予算の達成を目指す。今年度は“アクション2015”の実質初年度にあたり、かつ平成21年度予算はアクション2015の前提条件となっていることから、医療事業をはじめ、教育・研究、経営企画・財務、用度・管財、施設整備、総務・経営管理、等に係わるすべての法人事業に全学を挙げて意欲的に取り組む。

II. 法人主要事業

1. 枚方キャンパス学舎集約事業計画

- (1)枚方新学舎(統合移転整備事業計画)基本構想に基づき、事業企画推進委員会立上げ、基本計画策定。
- (2)基本設計策定、行政(文部科学省、国土交通省、枚方市等)との相談・協議。
- (3)詳細計画策定。
- (4)平成21年度末に実施(詳細)設計図書策定に着手。

2. 香里病院開院計画

- (1)基礎免震、躯体工事、内装仕上げ等、全工程の90%を完了。
- (2)各診療科の診療方針と運用体制策定、地域との連携方針策定等。

3. 人事給与制度構築

- (1)新人事給与制度の最終検証。
- (2)新人事給与システム(プログラム)の構築。
- (3)目標管理制度の試行運用。
- (4)試行運用結果の検証・改善。
- (5)期首設定目標進捗状況把握のための面談研修及び面談。
- (6)考課者訓練並びに考課面談。
- (7)新人事給与制度本稼働へ向けての準備。
- (8)全職員(教員を除く)について新資格及び新給与格付け実施。

III. 教育

1. 学部(教養部・専門部)

- (1)医師不足地域・診療科を目指す特別枠入学者の特別教育カリキュラムの実施。
- (2)第1～3学年での一貫性のある総合的な医学英語の実施。
- (3)共用試験におけるOSCE充実のための環境整備、基礎社会医学系教員向け評価者講習会の実施。
- (4)チュートリアル教育におけるチューターの質・意識の向上、学生の同教育の意義・目的の理解促進。
- (5)クリニカルクラークシップの目的達成のため、参加型臨床実習期間短縮による第5年3学期からの選択制臨床実習の本格稼働並びに、基幹科目学内実習の充実。
- (6)教育医長制度による臨床実習・臨床研修の円滑運営・充実と卒業生の本学附属病院での研修、研鑽促進。

- (7)現役・既卒国試受験生の100%合格を期し、成績下位者の受験生支援、国試対策協議会活動の活発化。
- (8)チュートリアル教育の効果増大を目指し、教員・学生双方参加の教育ワークショップ継続、新任教員ワークショップ充実強化。
- (9)枚方新学舎建設計画の推進。
- (10)高度な臨床実習を視野にスーパードクター制度の実施。
- (11)シミュレーション教育推進のためセンター設置構想等事業の推進。

2. 大学院

- (1)臨床系社会人コースの創設。
- (2)文部科学省 戦略的大学間連携プログラムに共同大学院参画プロジェクト採択の実現。
- (3)医薬工連携推進と基礎研究の拡充。
- (4)修士課程の設置。
- (5)大学院教育ワークショップの開催。
- (6)成績評価基準の明示と厳格な成績評価・修了認定の実施、入学者の増加と大学院充実・活性化の施策の検討、推進。

3. 入試センター創設

- (1)平成21年4月1日、教養部キャンパス内に入試センター設置。
- (2)入試業務の精度向上と入試活動強化企図。

4. 卒後教育

- (1)初期臨床研修部門は、初期研修医確保対策として、市中病院とのたすきがけ研修プログラムの策定・処遇改善等実施。
- (2)看護実践支援部門は、看護師確保に向け、魅力ある看護初期研修プログラム策定等実施。
- (3)キャリア形成支援部門は、専門研修医確保に向け、他大学主幹校の大学病院連携型高度医療人養成推進事業プログラム推進等実施。
- (4)女性医師支援部門は、働きやすい環境整備、復職支援への取組。
- (5)ホームページ、パンフレット等広報活動充実。

5. 看護教育

- (1)受験生確保対策として募集活動強化、オープンキャンパス充実、保護者への情報提供と支援体制策定。
- (2)改正カリキュラムの実施と評価。
- (3)計画的な専任教員の育成。
- (4)実習担当非常勤教員の導入と活用。
- (5)職員の業務時間管理。

法人

6. 図書館

- (1) 枚方新キャンパスの基本構想に向けた中長期計画の策定。
- (2) 電子ジャーナル・データベース等の電子資料への対応。
- (3) 機関リポジトリの構築。
- (4) 「登録医」へのサービス範囲を確定し、円滑な情報提供。

IV. 研究

1. 研究推進奨励施策

- (1) 科学研究費補助金(文部科学省、厚生労働省)、民間助成財団助成金等対応の研究活動の積極的推進。
- (2) アドホック委員会による文部科学省科学研究費補助金の獲得額増額。
- (3) 研究課題「場の再生による難病治療法開発」を継承し、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業申請。
- (4) 研究データベースを充実し、科学技術振興機構の研究開発支援総合ディレクトリ(ReaD)登録推進。

2. 附属生命医学研究所

- (1) 新設された生体情報部門とモデル動物部門の教員・研究室整備。
- (2) モデル動物部門の実験室整備。
- (3) 新設2部門において各種指導と汚染検査クリーン化、凍結胚サービス等を技師と連携。
- (4) 実験動物ハイテク飼育共同施設と実験動物飼育共同施設の統合具体化。

3. 実験動物飼育共同施設

- (1) 精子凍結保存体制の整備。
- (2) マウスSPF化システムの確立。
- (3) 遺伝子改変マウス作製サービス体制の構築。
- (4) 感染スクリーニング体制の充実。

4. ブレインメディカルリサーチセンター

- (1) 中間発表会開催と学内評価委員会の評価受審。
- (2) 個々の事業推進者の研究をトランスレーショナル研究へ発展努力。

5. 産学連携知的財産統括室

- (1) 産・官・公・地域、及び他研究機関との連携推進による研究の裾野拡大と外部資金獲得増大。
- (2) 知的財産の発掘、活用への支援、出願管理業務実施、共同・受託研究契約書作成、研究計画・報告調書作成支援。

6. 再生移植治療学大塚製薬寄附講座

- (1) 再生移植を用いた難病の治療法の開発研究成果を踏まえて継続推進予定。

V. 医療

1. 附属枚方病院

- (1) 医療収入額「約220億円」、帰属総収支差額「約12億円」の達成。
- (2) 各診療科医師の定数見直し。

- (3) 医師・臨床研修医の確保と女性医師支援プロジェクトの推進。
- (4) 業務委託費の見直し縮減。
- (5) 職員配置数の適正見直し。
- (6) ジェネリック医薬品の使用促進。
- (7) 医療経費削減の推進。
- (8) 1日平均外来患者数「2,000名」、新患者数「250」名の確保と病床稼働率「92%」の実現。
- (9) 在院日数「13日未満」の達成。
- (10) 7:1入院基本料維持のため看護師の確保と待遇改善。
- (11) 医療クラークの導入推進。
- (12) がん診療連携拠点病院の指定と緩和医療導入への継続検討。
- (13) 4疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病)の地域連携パス構築の推進と5事業(救急医療、災害医療、周産期医療、小児医療、(へき地医療除く))の推進。
- (14) 教職員のモチベーション向上のためのインセンティブ導入と資金1億円の確保。
- (15) 手術目標件数1ヶ月「800件以上」の具体化と手術室運用の効率化の推進。
- (16) 超過勤務時間の抑制と業務改善の推進、超過勤務手当「20%」の削減。
- (17) 医師のインシデント報告の積極的な推進。

2. 附属滝井病院

- (1) 総収入「130億円」、最終キャッシュフロー「2.5億円」の達成。
- (2) CCU施設基準の取得。
- (3) 手術室の拡大使用(8室稼働から9室運用)。
- (4) 高度救命救急センターの充実(ICU病床を6床稼働から8床運用目標)。
- (5) 病床稼働率「88%」の実現。
- (6) 1日外来患者数「1,600名」の確保。
- (7) 平均在院日数「14日」の達成。
- (8) 新規入院患者獲得のため地域医療連携の強化。
- (9) 保険診療内容の見直し。
- (10) 精神科病棟の運用見直し。
- (11) 外来化学療法センター設置による外来化学療法の実施。
- (12) 緩和ケア充実による高診療機能化。
- (13) 時間外診療拡大。
- (14) 高額インプラント製品、高価診療材料費の販売業者・調達先見直しによる医療経費の削減。
- (15) ジェネリック医薬品の導入促進。
- (16) 業務委託費の適正化。
- (17) 超過勤務時間の削減、前年度比超過勤務手当10%の削減。
- (18) 医師の再配分。
- (19) 病棟再編計画。
- (20) 外来再編計画。
- (21) 看護師及び女性医師の確保対策並びに離職防止策推進。
- (22) 施設改修計画実行。

法人

VI. 経営・管理

1. 経営企画(財務含む)

- (1)平成21年度予算の執行管理の徹底と外部環境変動リスクへの対応。
- (2)中長期資金収支シミュレーションの見直しと精緻化。
- (3)資金繰り管理の強化と資金効率の向上。
- (4)経営管理(財務)情報の正確及び迅速な伝達・共有体制の確立。
- (5)香里病院の建設資金調達条件の確定。
- (6)寄付金・研究助成金等外部資金調達体制の強化。
- (7)新財務システムの全面活用による経理事務の効率化。

2. 用度(管財含む)

- (1)薬品・診療材料購入額の削減。
- (2)機器備品購入窓口の中央化へ向けた試行取組み開始。
- (3)コスト削減策の強力推進。
- (4)在庫管理システム全面稼働による事務の効率化。
- (5)固定資産の現物実査。
- (6)競争的資金等による購入物品の検収態勢の整備拡大。
- (7)不動産管理の強化。

3. 施設設備

- (1)平成21年度建設関係予算、工事の必要最小限実施。(各部署希望工事費248,630,000円、予備費301,370,000円)。
- (2)枚方キャンパス学舎集約事業の推進。
- (3)附属滝井病院の保全計画策定。

4. 人事・総務(職員健康管理含む)

- (1)病院群再編に向けての人事施策の実行。
- (2)看護師確保体制の強化。
- (3)高齢者雇用促進法への対応。
- (4)会議体の見直し・業務プロセスの改善。
- (5)雇用形態の見直し(雇用形態の多様化)。
- (6)人材育成の充実。
- (7)職場復帰支援制度の確立。
- (8)各種健康診断の受診率アップ。
- (9)健康管理に関する教育の充実。
- (10)健康診断システムの充実及びデータの一括管理。

5. 医療安全

- (1)医療安全講習会の出席率(特に医師)向上。
- (2)職員(特に医師)のインシデント報告件数増加。
- (3)医療事故案件に関する情報の一元管理。
- (4)地域医療機関との連携を強化、地域の医療安全向上。
- (5)医療安全全国共同行動に参加、全国レベルで情報や安全対策共有。

6. 内部監査

- (1)業務監査の要素を強化。
- (2)平成19年度予備調査によるリスクアプローチを再分析。
- (3)特命監査実施。

寄付金

施設設備整備拡充事業資金へご寄付いただきました方々のご芳名を掲載して感謝の意を表します。(平成21年1~4月分)

〈個人〉

岩崎 悦子 様	三谷 武生 様
高木 大輔 様	吉田 直良 様
寺本 秀生 様	野村 義紀 様
榊田 昌之助 様	匿名 1件

〈法人〉

京阪産業株式会社 医療法人山根医院

平成20年度 寄付金実績報告

施設設備整備拡充資金および一般寄付金の実績は、次のとおりです。

ご寄付いただきました関係各位に改めて篤く御礼申し上げます。

総額 159,345,302円

- (4)年次計画・細目を6月理事会に、最終報告書を翌3月に提出。
 - (5)過年度内部監査の追跡調査の実施。
 - (6)監事監査・監査法人公認会計士監査との連携強化。
 - (7)公益通報・学内通報窓口の周知。
- #### 7. 大学情報センター
- (1)本学関係者全般を対象とした個人情報基盤データベース構築に向けた分析検討。
 - (2)各種業務システム向けに個人認証(パスワード認証)機能一元化の為の環境構築。
 - (3)給与体系の改定及び目標管理システムの総合的な支援。
 - (4)安全なネットワーク利用環境の整備。
 - (5)遠隔講義を含めた教材作製・公開支援。
 - (6)学部・大学院・附属看護専門学校の学生・教職員への情報教育の実施と支援。
 - (7)学内ネットワークの運用管理及びシステムの運用支援。
 - (8)附属病院間の診療連携のためのシステム整備の継続。
 - (9)地域医療連携システムの構築。
 - (10)各病院情報システムの機能拡充と次期システムへの計画立案。
 - (11)各病院電子診療情報の統合的な二次利用環境の整備。
 - (12)香里病院情報システムの構築。
- #### 8. 自己点検・評価活動
- (1)4月、自己点検・評価委員会委員改選。
 - (2)4月、第8次自己点検・評価委員会発足(1年目)。
 - (3)長期資金収支シミュレーション報告(財団法人大学基準協会宛)。
 - (4)財団法人大学基準協会助言事項等に対する改善。

法人

退任の挨拶



牧野の思い出

平成5年4月、関西医科大学に赴任いたしました。早いものであっという間に。気がつきましたら赴任から何と16年たっていました。

教養部では図書館分館長、学生部長、主事などをさせていただきました。とりわけ学生部に関係いたしましたため、入学式、新入生歓迎会、合宿研修旅行、慈仁会(保護者懇談会)、大学祭などの行事やその準備が楽しい思い出です。

またクラブ活動では、たくさんのクラブがここ牧野で合宿練習を行い、ここから西医体などの大会へ出発しました。牧野の門から彼らを「がんばってきなさい」と励まし、見送った夏の日々、冬の日々も楽しい思い出です。

牧野の自然は、春はソメイヨシノ、そして八重桜、つづいて、綺麗なつつじ、さつき。そして、緑のつたが一面に牧野の本館をおおいます。夏には見事なオールグリーンです。やがて甘き香りのキンモクセイが。本館のツタは見事な紅葉となります。京都の大徳寺には負けるかもしれませんが繊りなす紅葉のジュタン、屋上にかわいく連なる紅葉等々。大きな真黄色のイチョウも大学祭を彩ります。そして、そして、あたり一面まっ白の冬景色。春のはじめには、メジロやウグイス、ホトトギス、たくさんの鳥が牧野にやってきます。スイセンも群をなして咲き、春のた

前数学教授 有田 清三郎

けのこ、破竹、山椒、秋にはビワや柿もたわわになります。

牧野のクラシックな少しヨーロッパ的な校舎と牧野の緑の自然。クスノキはたくさんの枯葉を春と秋に毎日、毎日、どっさり落とし、守衛さんや清掃の人たち、大変ですが、懐かしい、懐かしい、楽しい楽しい牧野でした。

また、牧野グランド改修を岡本 勉先生をはじめ先生方と行き、その後、改修されたグランドで塚原 勇理事長、田代 裕学長(当時)に始球式をしていただいた事や、寒い冬、大講堂ではピアノコンサート(田代先生の寄贈ピアノ)、笙雅楽楽器技術者(人間国宝)の山田全一先生の「笙の音を訪ねて」や音楽療法学会の岸本寿男先生「音楽療法と尺八演奏」の講義など。また情報処理室ではフランス最先端科学技術センター長でエクスプロバンス医学部教授のエリーサンシェズ先生にご来校いただき、特別講演、その後、学生諸君たちとの交歓会、集合写真やたくさんのスナップ写真などなど楽しい思い出です。

たくさんの先生方々、事務の方々に支えられて、本年3月31日退任となりました。

先生方、事務の方々、そして、我が愛しき学生諸君の皆さん、本当に本当にありがとうございました。

2009年3月31日



「心医」育つこと信じつつ…

前心理学教授 古賀 愛人

私が、本学教養部に就任したのは、平成3年4月でした。以来18年間、心理学教授としてこの度退任を迎えましたが、この間、学長先生をはじめ諸先生方、事務職員の方々、学生諸君、保護者の方々等皆様方に、様々な形でお世話になりました。心より、お礼申し上げます。

18年間を振り返り、今後の本学の発展を願いつつ、感じました事を記してみたいと思います。

着任しました平成3年は、大学設置基準の大綱化がなされ、日本の大学における教養課程が大きく見直された時期になります。本学でも、第2学年の12月までは、牧野の教養部にて一般教育課程の授業がなされていましたが、平成5年度入学生からは教養部1学年となり、一般教育科目が、大幅に見直されました。また、態度・人間性教育としての「総合人間医学(医学概論、総合コミュニケーション学、導入チュートリアル、早期体験実習)」の開講、平成17年本格実施の共用試験(CBT,OSCE)に先立ち、客観的臨床能力試験(OSCE)をその5年前には導入する等々、古い一般総合大学の文系学部で育った者に

とっては、めまぐるしいほどの教育改革が他大学に先立ってなされてきました。

そして、本学の特色はこれらの教育改革の実施に当たっては、常にファカルティ・ディヴェロップメント(FD)としての教育ワークショップにて検討、企画がなされていることです。今でこそ、FDや教育ワークショップは一般的になっていますが、本学では既に昭和58年度に第1回教育ワークショップがなされているとのことです。

これらのことは、とりもなおさず「医学教育」「医師としての職業」の人間社会における重要性によるものでしょうが、本学が「医学教育」にいかにか真摯に取り組んでいるかを示しているものと思います。

「慈仁心鏡」の理念に基づくこのような教育体制の下では必ずや、患者さんの痛み・苦しみ・悩みが解る多くの「心医(韓流ドラマ「ホジュン」じゃないですけど…)」が育っていくであろうことを、信じつつ退任の挨拶とさせていただきます。

今後の皆様方のご健闘とご発展を祈ります。

法人

退 任 の 挨拶



コミュニケーションは「愛顔 愛語」

前心療内科学講座教授 中井 吉英

時がたつのは実に早いものです。昭和44年3月31日に本学を卒業したのが、つい先ほどのように思います。卒後、心臓血管外科医になるつもりでいました。ところが同級生のN君が「僕は心療内科医になるんだ」と言うではありませんか。私は「どうしたら心療内科をすることができるんだ」と聞かれますと、「第一内科に入局し九州大学に国内留学するんだ」というではありませんか。

矢も楯もなく大久保 滉教授の部屋を訪ねました。大久保教授からよく言われました。教授を恫喝して入局したのは後にも先にも君一人だ。私は「心療内科をさせてもらえるなら入局させていただきます。だめなら入局しません」と言ったことを覚えています。

同じ「心」がつかますが“心療内科”の道を歩むことになりました。「僕は心療内科医になるんだ」と言ったN君が外科医になりました。本当に人生とは不思議なものです。

昭和47年4月より昭和61年8月まで九州大学心療内科に在籍しました。昭和61年9月に帰学し、第一内科の中で内科と心療内科をスタートさせました。平成5年に第一内科が複合講座となり、心療内科が誕生し内科学第一講座の福原教授とともに教授に就任いたしました。平成12年に単独の心療内科学講座が誕生いたしました。長

い道のりでしたが、あっという間に本年3月31日をもって関西医科大学を定年退職いたしました。准教授の福永 幹彦教授にバトンタッチできたことは、初代の教授としてましてうれしい限りです。

4月1日から関西医科大学心療内科学講座の二人のスタッフとともに、洛西ニュータウン病院名誉院長・心療内科部長に就任いたしました。洛西ニュータウン病院はご存知のように3年前まで関西医科大学附属病院でした。自然に囲まれた実に癒される病院です。病院スタッフの皆さんの明るく礼儀正しい挨拶にホッといたします。本病院は関西医科大学の最も重要な支援病院に指定されています。病院のポリシーが明確になれば、発展性の大変高い病院になると思います。大学から若い優秀な医療スタッフを是非とも送っていただきたいものです。

以前、数人の患者さんとそのご家族に、「関西医科大学病院はいいですね。病院の中の入ると人の暖かさが伝わりほっとします。国公立の病院の冷たい雰囲気とはまるで違います」と言ってもらったことがありました。うれしかったですねえ。最先端の医療は医療の現場の暖かいコミュニケーションにより支えられているものと思います。「愛顔 愛語」、この言葉を、患者さんご家族、医療スタッフ、学生とのコミュニケーションの中心に置いていただきたいと思っています。母校の益々の発展を心より祈念いたしております。

一般職新規入職者は180名

枚方と滝井の病院で入職式

平成21年度一般職新規入職者は、看護職153名、医療技術職17名、事務職4名、薬剤研修員6名の合計180名、3月25日から4日間の入職前研修を経て4月1日(火)に枚方・滝井の両病院で入職式が行われました。部署別では大学事務局2名、枚方128名、滝井50名。

平成21年度新規入職者職名別内訳は、次のとおりです。

言語聴覚士	1名	臨床検査技師	6名
作業療法士	2名	臨床工学技士	1名
理学療法士	1名	視能訓練士	1名
薬剤師	5名	薬剤研修員	6名
事務員	4名	助産師	5名
看護師	148名		

なお、看護職の採用内定者の国家試験合格率は、99.2%(全国89.9%)でした。

附属枚方病院

午前9時30分から13階講堂において行われました。新入職者は128名で今村洋二病院長から代表者に辞令が手渡された後、臨席者がそれぞれ激励の挨拶を述べました。

職名別入職者は以下のとおりです。

看護師	109名	臨床検査技士	4名
助産師	4名	臨床工学技士	1名
薬剤師	7名	理学療法士	1名
視能訓練士	1名	事務員	1名

附属滝井病院

午前9時から6階講堂で行われました。新入職者は50名で高橋伯夫病院長らの歓迎挨拶がありました。各部門でオリエンテーション後、第一線へと配属されます。職名別入職者は以下のとおりです。

看護師	39名	作業療法士	2名
助産師	1名	言語聴覚士	1名
薬剤師	4名	事務員	1名
臨床検査技師	2名		



枚方病院での入職式風景

法人

退 任 の 挨拶

これからも、よろしくお願いします

前胸部心臓血管外科学講座教授 今村 洋二



江戸っ子は箱根の関所を越えることに抵抗があったらしく、古くから「都落ち」とか言われています。しかし、これは、関東武士の負け惜しみで、心の底には、千年の都、京・大阪への憧れが強く渦巻いているのではないかと考えています。私は、自らの専門領域である心臓血管外科学が、当時から西高東低であり、意気揚々、武者修行に出かけるつもりで関西にきました。しかし、着任した平成2年2月1日は、私を歓迎するような一面の銀世界でした。病院までの深い雪の中を歩きながら、これからの自分の先を暗示されているようでした。その日の朝、塚原 勇学長から「教授」という辞令をいただいた瞬間、身の引き締まる思いをしたことを今も鮮明に覚えています。さらに、その日の夕方、定年までの遙か20年先を思い、これからの大阪暮らしの無事と健康の願かけに法善寺のみずかけ不動尊に出かけました。それから毎年2月には法善寺参りを続けております。

さて、赴任して最初の仕事は、教室のソフト面の整備でした。それまで定期的には全く行われていなかった、他科とのカンファレンスの開催およびその記録の保存、手術術式の検討会およびその記録の保存、手術記録の保存、心臓血管外科医としての基本的な考えや哲学の鍛え直しが必要でした。これは、それまで指導者不在の期間が長すぎたことや教室員が「井の中の蛙」に甘んじていたためと思われました。そこで、直ちに、彼らを他科や他施設へ研修に出し、幅広い知識の吸収と豊富な経験させることに努めました。その頃の私は、教室員にこんな話をしています。

「私の趣味は園芸、特にバラの栽培です。根の強い野バラに接木したバラは強く、大きく育ち、たくさんの美しい花を咲かせます。私は、関西医大胸部外科の基礎を築いた初代香川輝正教授の後任として、教室の接木に来ました。これから、諸君と一緒に、大きく美しいバラを育てましょう。」

「われわれの仕事は、賽の河原に石を積んでいるようなもので、毎日の地味な努力の積み重ねが大切であり、一旦、信用を落とせば、積んだ石が崩れるごとく、信用も努力もすべて水の泡と化します。」

「己が、ぬれ落ち葉にならないためには、他人には頼らず、料理、洗濯はいうに及ばず、何事も自分で行い、自らの行動には、責任とセルフ・コントロールが必須である。」

大雪の法善寺のあの日から、あっという間の20年でした。関西医大を母校と考え、母校を愛し、前半の10年は教室のさらなる発展に、後半は枚方病院建設に情熱を注いできました。男子この世に生を受け、このような大きな仕事に参画させていただき、この上なき幸せと感じて

います。また、心臓血管外科医として、私が常に目指してきたことは「終生現役と、新しい手術術式の開発」です。枚方病院建設にもこの思いは充分入っています。

最後に、これまで私を支えてくれた家族、たくさんの先生方やコ・メディカルの方々、そして、今も変わらぬご厚情を下さるたくさんの患者さんに感謝するとともに、私の力不足のため不幸な結果を招いてしまった患者さんから戴いた貴重な知識や経験は、これからの医学の進歩につながるよう、後輩に必ず伝えていきます。さらに、私の定年を待てず、昨年他界した最愛の母にも、深く感謝します。私の座右の銘は、幼い頃から、私の性格を見抜いていた母の教え「実るほど、頭を垂れる稲穂かな」です。そして、母が息を引き取った、その病室にあった次の十条が私への母の最後の教えと思っています。

「つもりでない十条」

1. 高いつもりでも低いのは:教養
2. 低いつもりでも高いのは:気位
3. 深いつもりでも浅いのは:知識
4. 浅いつもりでも深いのは:欲の皮
5. 厚いつもりでも薄いのは:人情
6. 薄いつもりでも厚いのは:面の皮
7. 強いつもりでも弱いのは:根性
8. 弱いようでも強いのは:我
9. 多いようでも少ないのは:分別
10. 少ないようでも多いのは:無駄

長い間ありがとうございました。これからは、附属枚方病院・専任病院長としてお世話になります。今後ともよろしく願いいたします。

もし、あなたが裁判員になったら 特別休暇を付与 所定用紙で届出を

5月21日から始まった裁判員制度の裁判員になった教職員が、その職務遂行のために本学の業務を欠勤した場合は、就業規則第4章第13節の「特別休暇」を付与します。該当者は所定用紙により「特別休暇」取得の届出を行って下さい。

なお、具体的には、就業規則第4章第13節第13項の「その他、大学が特に必要と認めたとき：大学が指定した期間」を適用いたします。

法人

退 任 の 挨拶

心の灯、燃やし尽くすことができた

前定員外教授・附属洛西ニュータウン病院長 栗本 匡久



本年3月31日をもって定年退職いたしました。
昭和47年、関西医科大学に入職以来、出向、異動、留学期間を含め約35年、それ以前の大学院時代を含めますと、おおよそ40年間脳神経外科医として関西医科大学と共に歩きました。昭和63年までの20年間は滝井本院の講座の中にあり、関西医科大学卒業時、当時の(故)荻生規矩夫学長から頂いた卒業式の訓辞、プロフェッショナルであれというお言葉、そして初代脳神経外科学講座教授(故)景山直樹先生の教えであったアカデミックニューロサージャンであれ、志を高く、常に己を磨けという意味での(心の)灯を燃やし続けよという三つの教えを胸に医科大学の使命である、臨床、教育、研究に情熱を燃やしました。三つの教えを後進の指導にも活かそうとしましたが、環境の変化、職位の変動、時の経過と共に声は次第に届きにくくなりました。「君が頑張らなあかんやないか、なんでもっと戦わへんねん」という今は亡き恩師のお叱りの声が天国から聞こえてきそうで身がすくみます。

平成元年、附属洛西ニュータウン病院脳神経外科部長として異動いたしました。滝井本院とは異なるプライマリケアから救命医療にいたる救急医療、地域医療という臨床主体の病院であり、臨床と教育が中心となりました。平成7年、同院の病院長に就任し、地域中核病院としての発展、活性化、地域医療というこれまでの仕事とは全く異なる業務に力を尽くすことになりました。この間

のことはすでに関西医科大学80周年記念誌に書きましたので、ここでは触れませんが、思えば師の教えを病院運営に別の形で活かそうとした6期11年間であったのかもしれませんが。しかしながら国の限度を超える低医療費政策、医療にはなじまない市場原理主義という逆風の中、ご承知のような事情で附属洛西ニュータウン病院の幕引きを病院長として担うことになりました。ご期待に沿えなかったことを残念に思いますが、定年退職にあたり、在任中終始御厚情と御支援を頂いた諸先生方、看護職、事務職、パラメディカルの方々にこの誌面をお借りし改めて心より感謝を申し上げます。個人としては、場を得て心の灯を燃やし尽くすことができたという意味において、有意義な人生を歩むことができたことを感謝しています。

大学創立80周年の年、そして恩師が亡くなったのと同じ年に定年退職を迎えることに、いささかの感慨を禁じえませんが、昨今の医療崩壊の現実を見ると、日本の医療の中で今後、大学病院の果たす役割はますます重要になると思います。学会レベルと連動した高度医療、教育が提供できるような体制作り、そして学生、医師にとり魅力ある講座作りが喫緊の課題であろうと思います。

今後の関西医科大学の発展と脳神経外科学の発展を心から願い退任のご挨拶といたします。



地上工事用のタワークレーンを組み立て中(4月30日撮影)

香里病院新築工事

着工10ヵ月余
進捗率22%

着工から10ヵ月余、工事の進み具合は約2割です。気になる?香里病院新築工事の進捗状況を写真と共にお知らせしましょう。

4月30日現在、工事出来高として22%。今の主な工事は、地下一階の躯体工事が完了し、地上躯体工事用タワークレーン組立中。連休明けから地下工事に使用した仮設の構台を解体し、1階の鉄筋・型枠工事に着手します。このクレーンを使用して躯体工事を完成し、年内にクレーンを解体した後、来年5月竣工に向けて仕上げ工事を行います。

法人

就 任 の 挨 拶



若い時こそ基礎的学問が大事

数学教授 前田 茂

4月1日付けで教養部数学教室教授に着任致しました前田でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。大阪に生まれ育ったのですが、久しく故郷を離れていて、お陰様でこの度懐かしい地に戻って参りました。

前任校では総合科学部という学部在籍しておりましたが、この学部は旧教養部の職務をも引き継いでいた関係上、他学部の1・2年生に対して共通教育としての基礎数学・情報教育を担当しておりました。基礎数学の内容は、学部横断的な基礎的項目(微積分・線形代数)が中心でしたが、それ以外にも、例えば医学部からの要請で数年間、級数や確率といった項目を教えたこともありました。このような体験を通じて現在感じていることを些か申し述べさせていただきます。

学生にとって、特に実務に携わるようになってから、数学は役に立つのかという疑問をもつことがあるかもしれませんが、もう昔のことになります。私自身4年生の講座配属から修士修了時まで数学講座にいた後就職してある研究所のコンピュータ部門に配属された時には、実際にこのことを痛感したものです。場合によっては実務に直結する数学が現存することもあります。そうでもないことも多いようです。しかし、年を重ねるにつれ、次のように考えるようになりました。数学などの基礎的学問の習得を通じて、論理的考察力・分析力といった各人の基礎力を形作る要素が養成されているのではないかと、例えば何か未知の問題に遭遇したとき、どう対象を把握して

いくか、どういうふうに対処の筋道を作っていくか、といったいわばその人の背骨というべき一部が構成されているのではないかと(私の担当ということで数学という名称を挙げましたが、他の学問も全く同じ役割を担っていると思います)。一人一人の長い人生の中で、若いときに身につけた基礎的学問が果たしている役割は大きいのだと考えています。

このような基礎力の涵養という面を背景に踏まえて、学生がこれから医師として育っていく中で必須ないしは役立つと思われる事項もなるべく取り入れることを心がけながら数学の教育にあたりたいと考えています。限られた時間数の中で講義項目や各項目に充てる時間数を絞らねばならないという面がどうしても生じますが、医学教育という非常に重要で大きな世界の中で、数学教育の役割を噛みしめつつ、皆様方のご鞭撻を頂戴して微力を尽くして参りたいと存じます。

略 歴

前田 茂 教授

昭和50年3月 京都大学工学研究科修士課程修了
(数理工学専攻)

昭和50年4月 電々公社横須賀電気通信研究所研究員

昭和53年1月 京都大学工学部助手(工業数学講座)

昭和61年4月 大阪工業大学講師(経営工学科)

平成元年4月 徳島大学助教授(工学部・総合科学部)

平成9年4月 同教授(総合科学部)

平成21年4月 関西医科大学教養部教授



新しい開かれた部門、活性化を

健康科学教授 木村 穰

この度、平成21年4月より本学教養部健康科学教授に就任しました。まずはご推薦、ご推挙いただいた諸先生に厚く御礼申し上げます。同時に、本学卒業生の1人として、また医師として本学の医学教育に大きく関わることができ心より光栄にかつ責任を感じています。

今後、教養部は、単なる1年間の一般教養を教える機関ではなく、専門部や卒業後も我々の研究や生涯教育に役立つ環境として構築されるべきと考えています。将来的にはトランスレーショナルリサーチやメディカル、一般市民などへの教育・啓蒙も含めた関西医大の新しい開かれた部門として活性化されることを願っています。

私の研究に関しては、健康をキーワードとした臨床から基礎、社会医学までを包括した幅の広い社会に貢

献できる研究をめざしています。1999年に本学で健康科学センターを設立し、その後、心臓リハビリテーション、運動療法外来、禁煙外来、OB(肥満)外来、睡眠時無呼吸外来、スポーツ外来を開設し、生活習慣病の総合的治療・予防を实践、研究してきました。また最近のIT技術の恩恵を受け、インターネットでの情報提供やデータ管理を駆使し本学のみならず地域医療機関、フィットネスクラブ、職域、在宅と一元化された医療情報システムによる新しい医療サービスの開発研究も行っています。これらの領域は厚労省のみならず、経産省や総務省なども加わり、医療費軽減も含めた国家プロジェクトとして今後さらに重要視されてくると思われます。また究極の健康増進としてのアンチエイジングドックや非医療事業者との提携による新しい健康評価・増進事業も考案し、関西医大としてさらなる発展を考えています。

法人

就 任 の 挨 拶

細分化された専門医療の弊害が問題となっている現代医療において、医療の基本である患者中心の治療・医学教育、栄養・運動・心理を含めた全人的治療、予防医学、チーム医療をテーマとする健康科学は、今後全学をあげて取り組むべき分野です。そしてこの健康科学領域がより実践されるためには、我々医学系大学、附属病院である高度先進医療機関こそが率先して行う必要があります。このことが、本学の教育・研究・臨床レベルの向上につながり、教育・医療に従事するすべての職員が、更なる自信と誇りをもって働ける関西医科大学になると考えています。どうか今後とも皆様のごさらなるご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

略 歴

木村 穰 教授

昭和56年3月 関西医科大学卒業
 昭和56年6月 同附属病院臨床研修医
 昭和58年4月 同大学院博士課程内科学第二講座入学
 昭和63年10月 関西医科大学医学博士取得
 昭和63年10月 米国コネチカット大学留学
 平成元年9月 カナダトロント大学留学
 平成3年10月 大阪簡易保険総合健診センター内科医長
 平成9年6月 関西医科大学内科学第二講座助手
 平成10年1月 同講師
 平成14年4月 同助教授
 平成18年6月 同附属枚方病院健康科学センター長
 平成21年4月 同健康科学教授



“体とところ” 偏らない診療

心療内科学講座教授 福永 幹彦

4月1日づけで心療内科学講座の教授に就任いたしました。前任の中井先生が初代教授であり、心療内科の種をまきこれまで育ててこられました。これから収穫という時期に引き継がせていただきましたこと、大変光栄にまた幸運に思います。中井吉英教授の努力のおかげで、臨床ではすでに高い評価を得ています。この評価に恥じないよう自ら研鑽、また後身を育てたいと思います。また大学講座として、教育・研究においても心療内科ならではの成果を挙げることができると考えています。教育では、臨床と連続性のあるコミュニケーション教育や、全人的な人間理解と治療的なかわりについて、実地臨床の場で教育できます。研究では、「患者の症状の訴え」の身体機能面と心理社会面の関与や相互作用の解明、慢性疼痛患者の治療法の開発に取りかかっています。

心身医学、心療内科学そのものが日本に紹介されて50年。本学に講座ができて16年です。心療内科では患者さんを診るとき、体とところを分けなくて、双方いずれに偏ることなく病態を診立て、治療的なかわりを持ちます。体とところを分けなくて診るのはどの科でも同じですが、双方いずれに偏ることなくというところが心療内科の本領です。歴史は浅いのですが、その分社会の新しいニーズを積極的に吸収して行くことができると考えています。現在の主たる治療対象は、外来では過労などの日常ストレスで機能異常をきたし、頭痛、めまい、腹痛、しびれなどの身体症状を訴えて受診される機能的な身体症候群の患者さん。症状を十分に説明できる器質的な異常は見つかりません。患者さんはプライマリーケア新患外来のおよそ半数と言われています。入院では交通外傷、悪性腫瘍、肺炎、潰瘍性大腸炎、膠原病などさまざまな器質的な疾患に続発した慢性疼痛症候群の患者

さんです。患者さんの多くは青・壮年期であるにもかかわらず長期間の社会的脱落をきたしておられます。これらの病態には心理社会的な問題が身体症状に密接に関与するため、体とところいづれにも偏ることのない診療態度が病状の改善にたいへん重要なのです。そして患者さんは心療内科を受診されるのではなく各専門診療科を受診されます。このため心療内科ではとりわけ他の診療科との連携が重要になります。心療内科は草創期を経て臨床教育の体制が整いました。今後は各科との連携をよりいっそう緊密にし、専門性をいかして患者さんの苦痛を取り除けるよう努力したいと思います。

専門分野：心身医学、行動科学、社会心理学、医学教育
 研究分野：ストレスと生体反応、機能的な身体症状症候群の体とところ、慢性疼痛の慢性化因子

略 歴

福永 幹彦 教授

昭和60年3月 岐阜大学医学部卒業
 昭和60年5月 天理よろづ相談所病院ジュニアレジデント
 平成元年4月 関西医科大学内科学第一講座入局
 平成5年6月 同大学内科学第一講座助手
 平成10年4月 同大学内科学第一講座 心療内科部門講師
 平成12年10月 オーストラリア メルボルン大学 行動科学部 リサーチフェロー
 平成15年11月 関西医科大学心療内科学講座助教授
 平成21年4月 同大学心療内科学講座教授

法人

就 任 の 挨 拶



大動脈疾患治療の低侵襲化を

胸部心臓血管外科学講座教授 湊 直樹

心臓、大血管、腹部末梢血管、肺、縦隔の外科を担当することになりました湊 直樹です。よろしくお願

い申し上げます。私は筑波大学医学専門学群を昭和56年に卒業し、6年間のレジデントシステムを終了後、佐賀医科大学胸部心臓血管外科に入局しました。その後、関連病院としての福岡および岸和田徳洲会病院で臨床経験を積ませていただき、このたび平成21年4月16日付けで本学胸部心臓血管外科講座教授に就任しました。心臓血管外科領域は、ここ10年で目覚ましい技術的進歩をとげた反面、循環器内科領域でのcoronary stentの発展により、従来の手術適応が狭くなり、より厳しい状況の患者さんが紹介されてくるようになってきました。体外循環を使用しない心拍動下の冠動脈バイパス術はすでに心臓血管外科の中心となる技術になっていますが、低侵襲心臓手術、大動脈ステントグラフト、さらにはロボット手術など、これからも新しい技術を取り入れ、新しい分野を開拓していきたいと思っております。特に、大動脈疾患に対するステントグラフトは、大開胸下に5-6時間かけて施行してきた人工血管置換術が、鼠径部切開のみの大動脈アプローチで2-3時間で完遂されてしまうという驚異的な治療革命をもたらしています。すべての患者さんが適応とはなるわけではありませんし、いまだ問題点はあるものの、今後大動脈疾患治療の主となることは間違いありません。当科でも

ステントグラフト治療を取り入れ、大動脈疾患治療の低侵襲化をめざします。

今後、多くの若手の方に入局していただきたいと存じます。臨床に加え、医学生や研修医の教育、さらに研究という大学の3本柱において、教室の皆さんとともに魅力ある胸部心臓血管外科講座を築き、関西医科大学のさらなる発展に貢献できるよう全力を尽くす所存です。今後ともご指導のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

略 歴

湊 直樹 教授

昭和56年3月	筑波大学医学専門学群卒業
昭和56年6月	同大学附属病院 外科医員(研修医)
昭和61年5月	佐賀医科大学附属病院 胸部心臓血管外科助手
平成3年6月	文部省在外研究員としてベイラー大学(テキサス州ヒューストン)に留学 Dept. of Surgery, Dr Debakey, Dr Nose のもとで人工心臓、補助循環の研究
平成4年5月	佐賀医科大学附属病院 胸部心臓血管外科 講師
平成5年12月	福岡徳洲会病院 胸部心臓血管外科 部長
平成20年12月	岸和田徳洲会病院 心臓血管外科部長
平成21年4月	関西医科大学 胸部心臓血管外科教授

DPCの研究報告会を開催

「DPCを学びたい」と自主的に集まったメンバーによる研究報告会が3月26日(木)午後5時30分から附属枚方病院13階合同カンファレンスルームで開催されました。昨年夏から約半年間、5名が勉強会を重ねその成果を発表する場となりました。

DPCとは、診断群分類包括評価のこと。医療費の定額支払い制度に使われる評価方法でDPC (Diagnosis Procedure Combination; 診断群分類)に基づいて評価されます。

神崎秀陽総務担当理事のあいさつに引き続き第1部「調整係数の廃止と新機能評価係数の展望」と題し国際医療福祉大学山本康弘准教授による講演の後、第2部で5名が研究発表を行いました。演題、発表者は次のとおり。

1. 「DPCの理解と組織の連携」大学事務局用度部管財課検収係・藪田隆幸主任
2. 「近畿私立医科大学及び在阪5大学の平均在院日数比較」附属枚方病院事務部医事課患者サービス係・田中政博係長

3. 「DWHやDPCデータ活用による統計解析へのアプローチ」附属枚方病院医療情報部システム開発課・西野典宏係長
4. 「DPC診断群分類を用いた附属枚方病院における在院日数、医療収入の考察」附属枚方病院事務部医事課医療サービス係・森本圭祐主任
5. 「枚方病院と滝井病院を対象にした患者年齢構成の比較評価」大学事務局財務部経理課・橋本佳典課員



講演する山本康弘准教授

法人

人材育成 2つの研修会を実施 **総務部人事課****事務職員ミドル層を
対象にスキルアップ**

医療機関を取り巻く厳しい環境のなか、本法人組織における望ましい事務職員像に近づけることを目標とし、ミドル層を対象として教育研修を実施しました。活性化する組織体制の構築には実務の中核を担っているミドル層のスキルアップを図ることは極めて重要なことであると考えています。

今般のミドル層研修会は2部構成(延べ2日間)として経営戦略に関する理論と実践をテーマに設定しました。経営戦略の一般理論、SWOT(Strengths、Weaknesses、Opportunities、Threats)分析とバランス・スコアカード(BSC)手法に関する研修メニューを掲げ、附属病院のBSC導入計画案の策定を修了レポートとして課しています。休日出勤のなか8時間の講義とディスカッション、さらには課題レポートの宿題が求められるなど受講者にはハードルの高い研修となったのではないのでしょうか。

ミドル層研修会の目的・対象と方法

〔目的〕

経営戦略に関する理論と手法に関する研修を行うことにより、経営スキルの習得を図ると共に職場の活性化を担う牽引役として人材育成につなげる。

〔対象と方法〕

ミドル層となる事務職員として、50歳未満の課長、30～40歳の係長および主任層など30名程度を事務局より人選しました。また、所属施設、配属部署などに関わらず集合研修として実施しました。

〔研修内容〕

研修内容は経営戦略の一般理論、SWOT分析とBSC手法に関する講義とグループワークを実施しました。



職場の活性化を担うミドル層研修

日程	研修項目と内容		参加者数
平成20年 11月8日 (土)	講義	経営戦略の理論と実践	24名
	グループワーク(1)	ブレインストーミングとSWOT分析	
	グループワーク(2)	附属病院を対象にしたSWOT分析の事例研究	
	課題レポート	SWOT分析による附属病院の経営戦略	A4版1枚
平成21年 2月15日 (日)	講義	バランス・スコアカード(BSC)の理論と実践	19名
	グループワーク(1)	附属病院を対象にした戦略マップの構築	
	グループワーク(2)	戦略目標を達成するためのスコアカードの作成	
	課題レポート	あなたが考える附属病院のBSC導入計画案	A4版1枚

師長、技師長、管理職を対象に

目標設定の仕方などを研修

新人事給与制度を導入するためには、目標管理制度の定着を促進することが必要です。本学の目標管理制度において、考課者研修は必須であり、その中でも特に重要とされる目標設定の仕方について、師長・技師長および管理職者を対象として、外部講師に依頼し「目標管理の基本と次年度目標設定研修」を下記のとおり実施しました。

研修会では、目標設定プロセスを参加者自身が体験し習得するとともに、部下の目標設定指導・面談の仕方も習得すべく研修を行いました。

研修目的:

- ①マネジメントの基本理解
- ②目標による管理の基本と意味の理解

「職員の主体性の助長など」

職員一人ひとりが自己目標を設定し、その目標を自主的に管理することで、職員の主体性の助長を図る。

目標設定にあたって、病院や部門の方針や政策、

担当部門の課題等を踏まえることで、仕事の目的や自身に課せられた役割を関係づけて考える。「コミュニケーションによる職員の育成」

面談を通して上司と部下のコミュニケーションおよび信頼関係の構築を図り、職員の指導育成に役立てる。

- ③自らの目標(部門と個人)設定と進行管理
- ④部下の目標設定指導と進行管理指導
- ⑤面談の場での適切な説明

研修日時・受講対象者:

3月7日(土)、8日(日)・・・部長・次長クラス 27名
 3月14日(土)、15日(日)・・・管理職クラス 28名
 3月17日(火)、18日(水)・・・管理職クラス 33名
 3月21日(土)、22日(日)・・・師長・技師長クラス 35名

*研修時間は全て9時～17時10分

研修場所:

専門部学舎1号館5階大会議室
 附属枚方病院13階合同カンファレンスルーム(3月14日、15日のみ)

大 学

入試センターの創設と活動について

入試センター長 藤井 茂



平成21年4月、牧野キャンパス本館1階に「入試センター」を設置しました。山下敏夫学長の推薦で私が入試センター長に就任しました。本務職員として疋田 稔課長、兼務職員として西久保裕行事務長以下2名の事務職員を加えてスタートすることになりました。

昨今、18歳人口の減少により全国的に入学志願者数の減少が顕著に現れ、大学の受け入れ定員が志願者を上回るのは間近であるといわれています。本学は、入学志願者の選抜法として、ここ20年近く一般入学試験と推薦入学試験を実施していますが、この18歳人口の減少による影響が近い将来、本学を含めた医学部にも及んでくるのが危惧されています。このような状況を鑑み、今後とも関西医科大学の発展を担う優秀な学生を獲得する施策の一つとして、「入試センター」を創設することになりました。

今年度の入試センターに課せられた大きな業務の一つが、試験日と試験会場を変更する一般入学試験(第一次試験)を無事に実施することです。これまで、本学の入学試験は、試験会場として本学および本学の近隣にある関西外国語大学のキャンパスを借用して行ってきました。し

かし、来年1月30日(土)に行う一般入学試験(第一次試験)の会場は、牧野キャンパスからどのような交通手段でも1時間程度は要する大阪南港にある大阪アカデミアです。この会場変更にともない入学試験の運用面で多くの変更が必要となることが予想されます。入学試験はやり直しの利かない大きな行事であり、その実施にあたって入念な準備と綿密な計画が必要です。これらの準備を着実に進めるとともに、入試センター設立の主旨に沿って入試システムの分析を行い、関西医科大学の特色などを幅広い活動を通じて最大限にアピールしていこうと考えています。

入学試験は、将来の関西医科大学の発展を担う大きな事業の一つであり、本学教職員の皆様のご協力がなければ達成のできない行事です。入試センターの職員と力を合わせて本学の発展に少しでも寄与できるように最善を尽くす所存です。皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

繰り返しになりますが、平成22年度一般入学試験(第一次試験)の期日と会場は下記の通りです。

試験日：平成22年1月30日(土)

試験会場：大阪アカデミア

(大阪市住之江区南港、インテックス大阪の近くにあります)

教養部教務部長・学生部長など平成21年度の新体制決まる

今年度から入試センターが創設され、センター長には藤井 茂教授(化学)が選任され、その他教養部教務部長、同学生部長、各種施設長なども2月、3月の全学教授会、専門部教授会および大学院医学研究科委員会で選出、平成21年度の本学の新体制が4月1日からスタートしました。各種役職者改選投票の結果は、下記のとおり。任期は、(1年)記載以外は2年。

大学院医学研究科委員会

・実験動物ハイテク

飼育共同施設長 再任 藤澤順一 教授

専門部教授会

・実験動物飼育共同施設長 再任 藤澤順一 教授

・再生医学難病治療

センター長(1年) 再任 池原 進 教授

・癌治療センター長(1年) 再任 池原 進 教授

・アイソトープ実験

施設長(1年) 再任 藤澤順一 教授

・ガンマ線照射施設長(1年) 再任 池原 進 教授

全学教授会

・入試センター長 新任 藤井 茂 教授

・教養部主事 再任 吉本康明 教授

・教養部教務部長 新任 藤井 茂 教授

・教養部学生部長 新任 中川 淳 教授

・附属図書館長 新任 西山利正 教授

・附属図書館分館

教養部分館長 新任 木原 裕 教授

・産学連携知的財産

統括室長 再任 山田久夫 教授

平成21年度クラスアドバイザー

第1学年(A)	菅谷 泰行	准教授
第1学年(B)	木原 裕	教授
第2学年	中邨 智之	教授
〃	大谷 ひとみ	講師
第3学年	中村 加枝	教授
〃	松崎 竜一	助教

第4学年	金子 一成	教授
〃	木下 洋	准教授
第5学年	岡崎 和一	教授
〃	關 壽人	診療教授
第6学年	飯田 寛和	教授
〃	兒島 新	講師

大 学

第103回医師国家試験結果

平成21年2月14日(土)から3日間行われた第103回医師国家試験の結果が3月27日(金)に発表されました。

本学は、新卒受験生94名のうち92名が合格し合格率は97.9%でした。既卒者は10名のうち4名が合格。新卒者と既卒者を合わせると受験者数104名中96名が合格、合格率は、92.3%で、私立医科大学29校中、第10位という結果でした。

	受験者数	合格者数	合格率(%)
新 卒	94	92	97.9
既 卒	10	4	40.0
合 計	104	96	92.3

全国平均合格率91.0% 私立平均合格率89.4%

名誉教授称号の授与

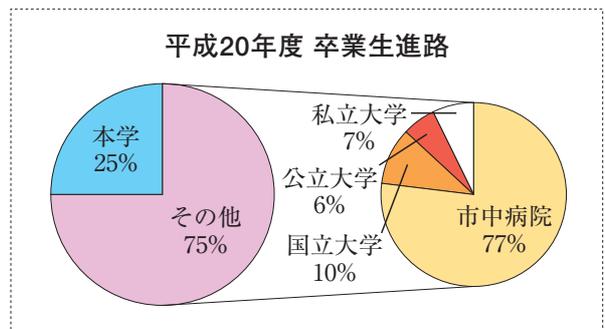
本学名誉教授称号授与規程に定めるところにより、教授会の議を経て、名誉教授称号が次のとおり4月1日付で授与されました。

- 第81号 有田清三郎 前数学教授
- 第82号 今村洋二 前胸部心臓血管外科学講座教授
- 第83号 栗本匡久 前附属洛西ニュータウン病院長
- 第84号 古賀愛人 前心理学教授
- 第85号 中井吉英 前心療内科学講座教授

平成20年度卒業生進路
市中病院が77%占める

平成20年度卒業生進路は、本学23名、学外69名(内訳：国立大学7名、公立大学4名、私立大学5名、市中病院53名)となっています。

本学25%、学外75%で学外の内訳では、市中病院だけで77%を占めています。



学術フロンティア推進事業
中間発表会を開催

学術フロンティア推進事業(ブレインメディカルリサーチセンター)中間発表会は、3月23日(月)午後2時から附属滝井病院南館臨床講堂で行われました。プログラムは、下記のとおり。

プログラム

- ▽座長 解剖学第二講座 杉本哲夫
「学術フロンティア推進事業について」
学 長 山下 敏夫
「ブレインメディカルリサーチセンターの進捗状況と展望」「GFP蛍光タンパク発現マウスを用いた神経修復・再生の可視化」
医化学講座 伊藤 誠二
- 「生体における神経幹細胞」
解剖学第一講座 森 徹自
「神経・筋難病疾患の変性機序の解明と再生医療」
神経内科学講座 日下 博文
- ▽座長 解剖学第一講座 山田 久夫
「組織幹細胞の同定と再生医療への応用」
衛生学講座 藪田 精昭

- 「遺伝子導入による内耳有毛細胞の再生と機能回復」
耳鼻咽喉科学講座 泉川 雅彦
- 「ペインクリニックにおける癌性疼痛患者の治療」
麻酔科学講座 田口 仁士
- 「報酬と嫌悪の神経メカニズム」
生理学第二講座 中村 加枝
- ▽座長 医化学講座 伊藤 誠二
「慢性疼痛患者の痛みはトータル・ペインである」
心療内科学講座 中井 吉英
- 「講評」
名誉教授 稲垣千代子



発表する伊藤教授

学 事

新入生オリエンテーション

4日間、講演や枚方病院見学

新入生オリエンテーションは、4月7日(火)～10日(金)の4日間行われました。7・8日の両日は附属滝井病院南館臨床講堂での講演および附属枚方病院の施設見学、9・10日は、教養部において授業態度の心構えなどの話がありました。

オリエンテーション1日目(基礎社会医学系)として、「21世紀は医学の時代」伊藤誠二教授(医化学)、「医療の芽生え-医療人類学的視野から」西山利正教授(公衆衛生学)の2題の講演の後、附属枚方病院の施設見学が行われました。

オリエンテーション2日目(臨床医学系)は、「本学のカリキュラム」藺田精昭教授(専門部教務部長・衛生学)、「眼は心の窓・体の窓」高橋寛二教授(眼科学)、「医学生のだしなみ-品位・品格・知識」木下洋准教授(小児科学)、「当世医学生気質-外科医はつらいよ-」の4講演があり、続いて山田久夫教授(専門



カリキュラムについて話をする藺田教務部長

部学生部長・解剖学第一)の挨拶、「健康管理室の役割」「学生相談室の役割」の話、創立80周年記念ビデオの放映がありました。

教養部オリエンテーション(4月9・10日)に於いては、これからの授業態度等の心構えや実習科目・セミナー科目の説明がありました。



「さあ頑張るぞ」学生と教員が一体

楽しいひと時、新入生歓迎会

学生主催による、平成21年度新入生歓迎会は、4月10日(金)午後6時から午後8時まで、守口ロイヤルパインズホテルにおいて山下敏夫学長をはじめ多数の教職員や学生自治会代表、在学生ら総勢188名が出席して盛大に開催されました。

当日は、軽音楽部による演奏を聴きながら新入生もオリエンテーションの最終日とあってリラックスした雰囲気の中、先生や先輩たちと楽しいひと時を過ごしました。

合歓の郷で新入生合宿研修 友人できた、教職員とも交流深める

1学年合宿研修は4月27日(月)から28日(火)の1泊2日の日程で、三重県の「合歓の郷」において行われました。幸い両日も天候にも恵まれ、1日目はクイズラリーとグループディスカッション、2日目はスポーツフェスティバルと選択メニュー(パターゴルフ・アーチェリー・真珠アクセサリー作り・オルゴール作り)を行いました。

この合宿研修を通して、これから医師となる自覚と責

任感が養われ、また、入学時の早い時期に実施したことで、新しい友人も出来、学生間及び学生と教職員の交流も深まり充実した研修でした。

山下学長を囲んで記念撮影



学 事

平成21年度(平成21年4月～平成22年3月)教務関係日程予定表

学 年						事 項		日 程		備 考	
					6	1	学 期 開 講		3月30日(月)		
	2	3	4	5		1	学 期 開 講		4月6日(月)		
					6	臨 床 実 習		3月30日(月)～6月26日(金)		◎2学年ガイダンス	
				5	臨 床 実 習			4月6日(月)～2月26日(金)		4月1日(水)	
1						前 期 開 講			4月13日(月)	◎3学年ガイダンス	
1	2	3	4	5	6	休 講 (5月連休)		5月4日(月)～5月8日(金)		4月3日(金)	
	2					試 験 期 間		7月6日(月)～7月10日(金)		◎4学年ガイダンス	
		3				試 験 期 間		7月6日(月)～7月17日(金)		4月2日(木)	
	2					1 学 期 終 講			7月10日(金)	◎5学年ガイダンス	
			4			試 験 期 間		7月13日(月)～7月17日(金)		4月3日(金)	
	2					夏 季 休 業 開 始			7月13日(月)	◎6学年ガイダンス	
1						講 義 終 了			7月17日(金)	3月26日(木)	
		3	4			1 学 期 終 講			7月17日(金)	◎入学式	
					6	A d v a n c e d O S C E			7月18日(土)	4月4日(土)	
					6	1 学 期 終 講			7月18日(土)	◎新入生オリエンテーション(専門部)	
1		3	4		6	夏 季 休 業 開 始			7月21日(火)	4月7日(火)～4月8日(水)	
				5		1 学 期 終 講			7月24日(金)	◎新入生オリエンテーション(教養部)	
				5		夏 季 休 業 開 始			7月27日(月)	4月9日(木)～4月10日(金)	
	2	3	4	5		夏 季 休 業 終 了			8月21日(金)		
	2	3	4	5		2 学 期 開 講			8月24日(月)		
					6	夏 季 休 業 終 了			8月29日(土)		
1						夏 季 休 業 終 了			8月31日(月)	行事その他による休講	
					6	2 学 期 開 講			8月31日(月)	◎1学年合宿研修	
					6	卒 業 試 験		8月31日(月)～11月10日(火)		4月27日(月)～28日(火)	
1						講 義 再 開			9月1日(火)	◎解剖体追悼法要	
1						前 期 終 講			9月11日(金)	5月15日(金)	
1						前 期 試 験		9月14日(月)～9月25日(金)		◎2学年学生定期健康診断日	
1						後 期 開 講			9月28日(月)	5月20日(水)	
			4			試 験 期 間		10月26日(月)～10月29日(木)		◎3・5学年学生定期健康診断日	
					6	総 合 試 験		11月11日(水)～11月13日(金)		5月21日(木)	
					6	2 学 期 終 講			11月13日(金)	◎4・6学年学生定期健康診断日	
					6	冬 季 休 業 開 始 (以降自習期間)			11月16日(月)	5月22日(金)	
			4			試 験 期 間		12月14日(月)～12月18日(金)		◎創立記念日	
	2		4			2 学 期 終 講			12月18日(金)	6月30日(火)	
		3				2 学 期 終 講			12月19日(土)	◎大学祭	
	2	3	4			冬 季 休 業 開 始			12月21日(月)	10月30日(金)～11月1日(日)	
1						講 義 終 了			12月22日(火)	◎卒業式	
1						冬 季 休 業 開 始			12月24日(木)	平成22年3月3日(水)	
				5		2 学 期 終 講			12月25日(金)		
				5		冬 季 休 業 開 始			12月28日(月)		
1	2	3	4	5		冬 季 休 業 終 了		平成22年1月2日(土)			
1						講 義 再 開			1月4日(月)		
	2	3	4	5		3 学 期 開 講			1月4日(月)		
1						後 期 終 講			1月28日(木)		
		3				試 験 期 間		1月25日(月)～2月12日(金)			
			4			C B T 共 用 試 験		2月4日(木)～2月5日(金)			
1						後 期 試 験		2月8日(月)～2月17日(水)			
	2					試 験 期 間		2月15日(月)～3月12日(金)			
		3				分 属 実 習		2月15日(月)～3月12日(金)			
1						再 試 験		3月4日(木)～3月9日(火)			
			4			O S C E			3月6日(土)		
			4			3 学 期 終 講			3月6日(土)		
				5		クリニカル・クラークシップ総合試験			3月10日(水)	注) 休講日及び休業期間においても試験・授業等を行うことがあるので、注意すること。	
				5		3 学 期 終 講			3月10日(水)		
	2	3				3 学 期 終 講			3月12日(金)		

学 事

平成21年度科学研究費補助金交付内定者一覧(文部科学省・日本学術振興会)

平成21年度科学研究費補助金は、83件で総額173,390千円の交付が内定しました。

単位:円

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
特定領域 研究 継続	分子遺伝学部門	片桐 晃子	准教授	癌抑制遺伝子RAPLとその下流標的分子Mst1による増殖及び発癌抑制機構	6,000,000	0
	生理学第二	中村 加枝	教授	ドパミン系とセロトニン系における報酬・コスト情報の統合	2,400,000	0
	医化学	伊藤 誠二	教授	神経可塑性に伴うNMDA受容体複合体の再編成と活性化に関する機能分子の探索	4,000,000	0
	薬理学	中邨 智之	教授	弾性線維の形成と老化におけるDANCE/fibulin-5の役割	3,900,000	0
	分子遺伝学部門	片貝 智哉	講師	二次リンパ器官ストローマ細胞による免疫支持場の構築メカニズム	2,000,000	0
	分子遺伝学部門	木梨 達雄	教授	Rap1シグナルによるリンパ球動態の制御機構	5,000,000	0
基盤研究 (S) 継続	医化学	伊藤 誠二	教授	神経可塑性モデルとしての神経因性疼痛の発症・認識機構の体系的研究	9,400,000	2,820,000
基盤研究 (B) 継続	放射線科学	播磨 洋子	准教授	分子生物学的手法を用いた子宮頸癌の放射線治療効果予測因子の探索と検証	4,100,000	1,230,000
	生理学第二	中村 加枝	教授	セロトニン・アセチルコリン・ドパミンネットワークによる報酬・嫌悪情報処理機構	2,000,000	600,000
	薬理学	中邨 智之	教授	弾性線維形成の分子機構の研究	5,100,000	1,530,000
基盤研究 (C) 継続	法医学	吉田 学	准教授	新液-液抽出法と組合せたデュアルカラムHPLCの開発と分析ルーチンの確立	500,000	150,000
	生理学第二	久寶 真一	准教授	小脳変性症に対するリハビリテーション効果の分子機構解明	1,000,000	300,000
	外科学	中根 恭司	教授	噴門側胃切除後の残胃運動機能に関する臨床研究	700,000	210,000
	泌尿器科学	松田 公志	教授	泌尿器腹腔鏡手術における技術評価方法に関する研究	300,000	90,000
	形成外科学	楠本 健司	教授	脂肪組織幹細胞から誘導した骨による3次元形状骨の形成に関する研究	1,000,000	300,000
	物理学	木原 裕	教授	主にベータ構造からなる3種のSH3蛋白質の動的構造と構造変換	1,400,000	420,000
	薬理学	服部 尚樹	准教授	免疫系におけるプロラクチンN端16Kフラグメントの生理的、病的役割の解明	1,400,000	420,000
	病理学第一	稲葉 宗夫	准教授	並体結合マウスを用いた骨髄内骨髄移植の有効性の検証	800,000	240,000
	公衆衛生学	三宅 眞理	助教	介護の軽減を目的とした認知症ケアに関する研究	600,000	180,000
	臨床検査医学	高橋 伯夫	教授	内因性ジギタリスの構造解析とその電解質・血圧調節に占める役割の解明	1,100,000	330,000
	内科学第三	岡崎 和一	教授	自己免疫性膵炎および硬化性胆管炎における発症機序と進展に関する免疫学的研究	1,300,000	390,000
	総合診療科 (2内)	小崎 篤志	講師	血中S100A12タンパク質の動脈硬化および心血管イベントへの関与に関する研究	800,000	240,000
	内科学第二	岩坂 壽二	教授	虚血性心疾患における酸化ストレスの2面性と抗酸化療法ジレンマに関する研究	600,000	180,000
	神経内科学	中野 智	准教授	封入体筋炎における動的糖鎖付加の研究	1,100,000	330,000
衛生学	佐々木 豊	講師	骨髄内直接移植法を用いた新規マウス造血幹細胞の同定とその幹細胞特性の解明	1,500,000	450,000	

学 事

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
基盤研究 (C) 継続	病理学第一	比 舍 弘 子	講師	ヒトおよびマウスにおける造血幹細胞と間葉系幹細胞間のMHC拘束性の解析	1,000,000	300,000
	衛生学	植村 靖史	講師	ヒトNKTサブセットのアジュバント効果を応用したTh17応答制御法の開発	1,200,000	360,000
	外科学	権 雅 憲	教授	ファイブロネクチンを用いた多剤耐性緑膿菌制御の検討	1,100,000	330,000
	解剖学第一	若林 毅 俊	講師	血管付き神経移植による視神経再生促進作用の解析	1,100,000	330,000
	眼科学	緒方奈保子	准教授	糖尿病網膜症の発症、進展における全身因子、眼局所因子の関連機序の解明	1,300,000	390,000
	放射線科学	谷川 昇	講師	難治性疼痛を有する脊椎圧迫骨折に対する椎体形成術の除痛機序の実験的解明	1,300,000	390,000
	医化学	芦高恵美子	講師	神経ペプチドノシスタチン結合タンパク質による疼痛制御	800,000	240,000
	心療内科学	阿部 哲 也	講師	慢性疼痛の診断・治療指標候補の一酸化窒素の神経可塑性変化における活性化機構	900,000	270,000
	医化学	畝崎佐和子	助教	蛍光発色マウスを用いる神経因性疼痛モデルにおける神経再生機構の解明	1,700,000	510,000
	医化学	片野泰代	助教	神経因性疼痛発現維持機構の解明を目的としたプロテオミクス研究	1,100,000	330,000
基盤研究 (C) 新規	整形外科学	菅 俊 光	講師	下肢人工関節置換術後リハビリテーションにおける認知行動療法的アプローチの有効性	1,500,000	450,000
	物理学	楠本邦子 (竹本)	講師	炭素の窓を利用した軟X線顕微鏡での生きた細胞観察の試み	1,700,000	510,000
	分子遺伝学部門	片桐 晃 子	准教授	Rap1-RAPL-Mst1シグナルによる動態制御のメカニズム	1,600,000	480,000
	病理解剖	足立 靖	准教授	効率の良い骨髄内骨髄移植法の開発と悪性腫瘍の治療や再生医療への応用	1,100,000	330,000
	微生物学	藤澤 順 一	教授	HTLV-1感染ヒト化マウスを用いたATLおよびHAM発症機序の解明	1,700,000	510,000
	臨床検査医学	小宮山 豊	講師	アルドステロンの腎障害機構に対する内因性ジギタリスの保護効果	1,500,000	450,000
	内科学第三	西尾 彰 功	准教授	アルコール性膵炎発症における自然免疫の関与と喫煙の影響の解明	1,500,000	450,000
	内科(男山)	塚口 裕 康	助教	家族性間質性腎炎の分子遺伝学的研究	1,600,000	480,000
	衛生学	藺田精昭	教授	ヒト未分化CD34抗原陰性造血幹細胞の特性解明と再生医療への応用	1,900,000	570,000
	内科学第一	伊藤 量 基	講師	免疫調節分子OX40リガンドを標的とした炎症性疾患治療への試み	2,100,000	630,000
	小児科学	高屋 淳 二	講師	エピジェネティクスにかかわるマグネシウムの可能性	2,100,000	630,000
	放射線科学	澤田 敏	教授	マイクロバブル化炭酸ガスを用いた超短時間型塞栓剤の開発	1,000,000	300,000
	病理学第二	螺良 愛 郎	教授	スルフォラファンオートファジーを介する乳癌細胞死滅機構の同定と癌治療への応用	2,600,000	780,000
	病理学第二	松岡洋一郎	准教授	経産乳腺の発癌抵抗性に関与するc-Myc標的遺伝子の発現抑制機構研究	2,500,000	750,000
	胸部心臓血管外科学	榎木千春	助教	虚血性心筋症モデルにおける骨髄細胞の動態と細胞増殖因子を用いた再生医療の研究	1,500,000	450,000
耳鼻咽喉科学	岩井 大	准教授	免疫操作による老人性難聴の予防—分子生物学的機序の解析	1,400,000	420,000	

学 事

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
基盤研究 (C) 新規	眼科学	高橋寛二	教授	加齢黄斑変性における網膜色素上皮細胞の小胞体ストレスの関与の解明と治療法への応用	1,300,000	390,000
	医化学	松村伸治	講師	神経因性疼痛維持の神経細胞-前駆細胞-グリアネットワークの解析と一酸化窒素の役割	2,000,000	600,000
	衛生学	長谷 真	助教	ニッチー造血幹細胞間におけるG蛋白質共役型受容体TM7XN1の機能解析	1,300,000	390,000
挑戦的 萌芽研究 継続	ドイツ語	菅谷泰行	准教授	高齢者コミュニケーション評価法開発のための老年言語学的参与観察研究と大規模調査	100,000	0
	薬理学	中邨智之	教授	弾性線維の再生の研究	1,600,000	0
挑戦的 萌芽研究 新規	公衆衛生学	西山利正	教授	中国語医療通訳者育成マニュアルの開発	600,000	0
	放射線科学	播磨洋子	准教授	放射線抵抗性子宮頸癌の治療戦略としてのTTK/hMps1遺伝子の機能解析	1,800,000	0
若手研究 (A) 継続	分子遺伝学部門	片貝智哉	講師	二次リンパ器官ストローマ細胞ネットワークの構築と免疫・生理学的機能解析	6,900,000	2,070,000
若手研究 (B) 継続	内科学第二	宮坂陽子	助教	左室拡張能と炎症反応性蛋白による心房細動、脳梗塞の予測と予後に関する検討	100,000	30,000
	形成外科学	竹本剛司	助教	家兎肋軟骨を用いた移植肋軟骨の彎曲変形に関する実験的研究	700,000	210,000
	神経内科学	和手麗香	助教	前頭側頭型認知症ホルマリン固定標本における封入体の切離および構成蛋白の解析	500,000	150,000
	解剖学第二	丸山正人	助教	ユニークな性状を持つ新規アミノペプチダーゼLaeverinの生理機能の解明	1,500,000	450,000
	生理学第一	林 美樹夫	助教	膵臓導管細胞に機能発現する内向き整流性KチャンネルのKイオン依存性活性化機構	900,000	270,000
	内科学第三	福井寿朗	助教	TGF- β シグナル伝達とリンパ球分化、胃粘膜免疫応答、発癌メカニズムの関連解析	1,100,000	330,000
	皮膚科学	山崎文和	助教	悪性黒色腫モデルマウスを用いた癌遺伝子変異解析、ISH法によるmRNA解析	1,400,000	420,000
	精神神経科学	分野正貴	助教	うつ病に対する薬物感受性遺伝子を考慮したSSRIとSNRIの無作為比較試験研究	1,100,000	330,000
	病理学第二	上原範久	講師	アセチル化修飾による細胞周期制御の分子機構と乳癌抑制に向けた新規標的分子の探索	1,200,000	360,000
若手研究 (B) 新規	モデル動物部門	李 成一	准教授	組換えH鎖抗体によるインフルエンザウイルスHA開裂阻止と感染防御効果の解析	1,400,000	420,000
	生体情報部門	大谷真志	助教	樹状細胞におけるmTORを介したIL-10発現制御機構の解明	1,800,000	540,000
	分子遺伝学部門	植田祥啓	講師	Mst1欠損マウスにおける免疫細胞の接着異常による自己免疫疾患の発症機構の解明	1,800,000	540,000
	内科学第三	坂口雄沢	助教	自己免疫性膵炎モデルにおける全身性硬化病変の免疫学的研究	800,000	240,000
	皮膚科学	植田郁子	助教	サルコイドーシスにおける $\gamma\delta$ T細胞の異常と病因病態への関与	2,100,000	630,000
	放射線科学	中谷 幸	専修医	CT透視下インターベンション時に術者の被曝を低減するシールドの開発	900,000	270,000
	放射線科学	米虫 敦	助教	骨セメントが線量分布に与える影響：経皮的椎体形成術と放射線治療の併用療法	900,000	270,000
	内科学第二	真鍋憲市	助教	造影剤腎症の早期診断バイオマーカーの検討	700,000	210,000
	胸部心臓 血管外科学	金田浩由紀	助教	癌幹細胞ニッチの検索	1,400,000	420,000

学 事

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
若手研究(B)新規	耳鼻咽喉科学	岡崎はるか	助教	遺伝子導入による蝸牛有毛細胞の再生とシナプス形成	1,000,000	300,000
	耳鼻咽喉科学	泉川雅彦	助教	難聴動物への内耳再生と機能回復	500,000	150,000
	眼科学	松岡雅人	助教	糖尿病網膜症における網膜無血管領域の血管網再構築	1,000,000	300,000
	眼科学	南野桂三	助教	緑内障モデルマウスにおけるG-CSFの神経保護効果	1,600,000	480,000
	形成外科学	覚道奈津子	助教	幹細胞を用いた脂肪組織再生と血管新生における分子機構の解明	1,200,000	360,000
	衛生学	中塚隆介	助教	歯髄由来CD45陰性、Sca-1およびCXCR4陽性幹細胞移植による組織修復	1,700,000	510,000

研究種目	内定件数	交付内定額(直接経費)	交付内定額(間接経費)	合 計
特定領域研究	6	23,300,000	0	23,300,000
基盤研究(S)	1	9,400,000	2,820,000	12,200,000
基盤研究(B)	3	11,200,000	3,360,000	14,560,000
基盤研究(C)	44	57,500,000	17,250,000	74,750,000
挑戦的萌芽研究	4	4,100,000	0	4,100,000
若手研究(A)	1	6,900,000	2,070,000	8,970,000
若手研究(B)	24	27,300,000	8,190,000	35,490,000
総合計	83	139,700,000	33,690,000	173,390,000

医療安全管理センター

平成20年インシデント報告集計

同センターでは、このほど附属3病院(枚方・滝井・男山)の平成20年インシデント報告を集計しました。それによると総報告数は、9,122件で患者への影響レベル別にした件数は、下表のとおりです。

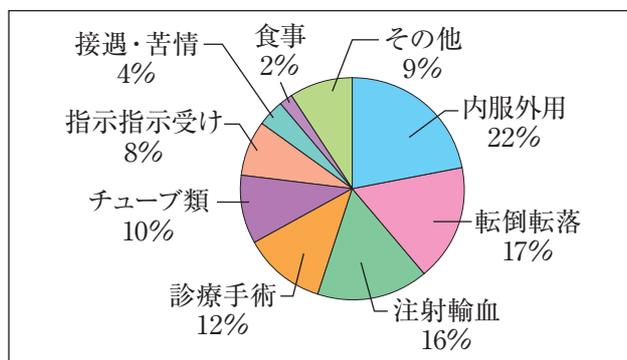
なお、インシデント報告は過失の有無とは無関係で、医療行為とは直接関係のないものも含めて集計しています。

「内服」「転倒転落」「注射輸血」が5割以上

インシデント事例発生の要因は、グラフに示されたとおり(1)内服に関するもの(2)転倒転落(3)注射輸血に関するものが多く、これらで全体の半分強を占めています。この割合は、国内での報告(ヒヤリ・ハット11,000事例によるエラーマップ完全本川村治子医学書院2003)とほぼ同等です。

同センターでは、今後も附属病院の事例検討を通じて、情報や対策の共有を図り、大学全体の医療安全向上を図ります。

発生の主な要因



患者への影響レベル別インシデント報告数

事故が発生する前に気がついた	事故は発生したが、患者への実害はなかった	観察強化などが必要であるが、処置や治療は不要であった	処置や治療を要した	総 計
1,488件	4,937件	1,815件	882件	9,122件

病院

附属枚方病院

4月から大阪府がん診療
拠点病院に指定される

当院は、3月31日付で、大阪府がん対策推進計画に基づく「大阪府がん診療拠点病院」に指定されました。指定の期間は、平成21年4月1日から平成25年3月31日まで。拠点病院の指定には、5大がん（肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん）を中心に下記の内容が要件とされています。

(1)手術、放射線療法及び化学療法を組み合わせた安全かつ効果的な集学的治療の提供

(2)緩和ケアの提供

(3)院内及び地域連携クリニカルパスの整備

(4)院内がん登録

(5)がん相談支援窓口の設置

(6)がん診療に関する研修会の実施など

今後はこれら要件を実践し、がん医療の一層の充実を図るとともに、大阪府下の中心的な役割を果たしていくことが使命となります。

がん治療センター長に今村病院長

昨年10月1日付でがん治療センターを組織、このほど診療科の枠を超えた集学的ながん治療並びに緩和ケアの実施のため、「がん治療センター運営委員会」が設置されたことに伴い、第1回の会議がこのほど開催されました。

同会議においてセンター長に今村洋二病院長、副センター長には外科の中根恭司診療教授が選任されました。また委員会の直轄として、具体的な諸課題を重点審議するために「緩和ケアチーム運営小委員会」が設置され、本格的に活動がスタートしました。

第2回看護研究発表会に345名

明日からの看護に活かそう

2月28日(土)午前9時から、関西医科大学看護部主催による平成20年度第2回看護研究発表会が開催され、枚方・滝井・男山の附属の3病院と附属看護専門学校から345名の参加がありました。13階講堂と合同カンファレンスルームの2つの会場で6つのセッション、延べ21演題の発表があり、活発な意見交換が行われ、明日からの看護に活かせる意義のある発表会となりました。

また、第6会議室、第7会議室では「腕自慢大会」と題して、熟練した技術を披露した研修報告やフィジカルアセスメントの技術向上に役立つ「フィジコ」などのシミュレーション機器の展示が行われ、多くの人が体験しました。



活発な意見交換行われる

今後も「看護研究を通して、エビデンスに基づいたケアの提供ができるよう質の向上に努めたい」とは主催者の弁。

BLS講習会を開催

3月9日(月)、12日(木)両日の午後5時30分から第3会議室において、BLSプロジェクト主催による第1回の講習会が開催され、延べ40名の参加者がありました。救急医学科富野敦稔助教と4N病棟徳山博美認定看護師による講義の後、AED等を使用した演習が行われました。



シミュレーターが一人に1台確保できたこともあり、参加者には大変好評でした。BLSプロジェクトでは今後も継続的に開催を予定しています。最近、AED

は、駅・空港・大規模ショッピングセンターには必ずと言っていいくらい設置されてきており、心室細動の初期対応に非常に有効な機器です。あなたが、そんな場に居合わせた時、非常に役立つ講習です。是非ご参加ください。※「BLS」 Basic Life Supportの略で一次救命処置のこと。※「AED」 Automated External Defibrillatorの略で自動体外式除細動器のこと。

13名のボランティアを表彰

当院では、院内ボランティア活動のスタートからちょうど1年、現在30名のボランティアが登録され、様々な分野で活躍をしています。このたび活動1周年を記念し、3月18日(水)午後1時から、今村洋二病院長、ボランティア委員会の吉田清和委員長の出席により表彰式が行われました。当日は13名に病院長から感謝状と記念品が手渡され、記念撮影が行われるなど、日ごろの活動に対する労がねぎらわれました。

病 院

附属滝井病院

重大事故対応訓練を実施

注射事故による死亡を想定
迫真の演技、動き理解できた

2月24日(火)午後5時30分から午後7時の間、旧7EF病棟において、注射事故の死亡事例を想定した重大事故対応訓練を実施しました。

出席者は、122名(看護師82名、医師12名、医技職5名、事務その他23名)。今回の訓練重点は、重大医療事故が発生した時、関係職員にどのような役割・行動が求められるか、患者・家族への連絡と説明、保健所並びに警察への報告、事故当事者のサポート、さらにマスコミ発表や謝罪のタイミングなど多重課題をスムーズに処理するために実施しました。訓練演技者の真剣味のある演技が大変好評であり、訓練を通じて病院組織の動きや対外的な対応要領などが理解できるなど成果がありました。

死亡した患者家族役も真剣そのもの



3月に肝疾患センターを設置

相談、教育研修支援部門も

平成20年7月10日に肝疾患診療連携拠点病院として指定を受け、拠点病院として、肝疾患診療に係る一般的な医療情報の提供、大阪府下の肝疾患専門医療機関等に関する情報の収集や紹介、院内外の医療従事者や地域住民を対象とした研修会や講演会の開催等教育研修支援や肝疾患に関する相談支援、肝疾患に関する専門医療機関と協議の場の設定を行うなど活動が求められており、関連各科が協力してその要求に応えるために平成21年3月1日付で肝疾患センターを設置しました。

肝疾患センターは、肝疾患にかかる診療支援および研究支援のほか、相談支援、教育研修支援の各支援部門を設けています。

なお、肝疾患センター長は消化器肝臓内科の關壽人診療教授が指名されました。

緩和ケアチームを設置

平成21年4月1日付で緩和ケアチーム設置運営委員会が設置された。

緩和ケアチームは治療による回復が期待できない患者や術後患者などに対し、疼痛管理を含めた心身共の苦痛に対する支援体制を講じ、患者および家族のQOLの向上を図るため、外科の医師を中心に関連する職種が参加して、患者の身体的苦しみや精神的苦しみから開放する緩和医療を実践します。

禁煙推進プロジェクトチーム活動状況

○かくれ喫煙を撲滅するための巡回指導

巡視場所は大学側と住み分けを行い、病院側は本館、南館、北館、別館、2号館、4号館、10号館の医療従事者立入敷地内を行っています。巡視人員は禁煙推進プロジェクトチーム、安全衛生委員会委員及び事務職係長以上並びに看護師にて、男性1名を含む3名にて行っています。

巡回結果について

喫煙者については数名を認めるのみですが、吸殻についてはまだ多数見かけられています。

院内の喫煙については、看護部にてインシデント入力することになっていますので、看護部の方で医療安全部を通じて報告されます。

巡回指導については、4月に引き続き5月も実施をしています。

○喫煙に関するアンケートについて

患者 → 回収300名

毎日タバコを吸う	39名	13%
ときどきタバコを吸う	7名	2%
入院中なので一時的にやめている	22名	7%

職員 → 回収921名

現在、ときどきタバコを吸う	43名	5%
現在、毎日習慣的に吸う	99名	11%

敷地内全面禁煙について「周知は十分だと思いますか」の質問に患者28%、職員51%が「いいえ」との回答ですが、「このことを知っていますか」の質問に対しては、患者72%、職員95%が「はい」との答えており、周知はほぼできていると考えます。現在の敷地内禁煙ポスターの掲示、外来プラズマビジョンへの表示、入院案内時の説明に加え、職員へ募集している禁煙推進ポスターの掲示により、さらに周知を行っていきます。

○広報活動について

イントラネットにて敷地内禁煙広報及び、巡回指導の経過報告、喫煙アンケート未提出者への提出の呼び掛け、禁煙推進ポスターの募集(応募先:管理課)を行っています。

病 院

附属男山病院

附属男山病院閉院にあたって

前病院長 新宮 興



附属男山病院は平成21年3月31日に医療法人美杉会へ事業譲渡され、医療法人美杉会男山病院と名称を変更して診療を継続しています。関西医科

大学附属男山病院としては昭和50年の開院以来、33年の歴史を閉じることとなります。これまでご厚意を頂いた患者、家族、地域医師会、本学関係者、監督官庁、そしてなによりも附属男山病院を支えてくださった職員の方々にお礼を申し上げます。

附属男山病院は昭和50年に132床で開院し、その後昭和55年に162床、昭和62年に212床と増床して現在に至っています。病院長は開院当初の初代水野潤二病院長から、二代目塩田登志也病院長、豊 紘病院長職務代行、三代目染田邦幸病院長、四代目豊 紘病院長を経て、私が平成20年4月から五代目病院長となりました。これらの歴代病院長をはじめとする職員の貢献により附属男山病院は地域に根差した中核病院として信頼を得て現在に至っています。病院のモットーを「来てよかった病院」とされたのも、現在では当然と思われる患者さん本位の病院であることを他病院に先駆けて目指していたことの表れです。現在の関西医科大学附属3病院の中では212床と、最も小規模であり、職員同士のコミュニケーションがよく取れている病院でもあります。患者を中心に職員が心を合わせて診療、看護、介護ができる病院であることに誇りを持ってきました。

大学法人の立場から附属男山病院を見ますと、平成18年の附属病院再編を経て、大学の中長期計画が練られています。平成18年に、特定機能病院・第一附属病院である枚方病院の開院、附属病院の縮小(附属滝井病院への名称変更)、附属香里病院の閉院、附属洛西ニュータウン病院の委譲と大きな再編を実施しました。平成22年には新たな関西医科大学香里病院の開院、附属滝井病院の病床縮小に伴う再編が控えています。さらに平成25年以降には大学法人本部、専門部・教養部・看護専門学校の学舎の枚方キャンパスへの移転も計画されています。また、平成16年の臨床研修制度の改革を始めとする国の医療制度・施策の改革により大学を取り巻く環境は大きく変化を遂げてきています。附属枚方病院を開院することにより、従来の附属病院は2分割される結果となり、さらに寝屋川市の要請により香里病院を再開院しなければならず、研修制度の改革により医学部卒業生の一般病院での研修志向による大学研修医の不足、7:1看

護体制の実施による看護師不足と、特に医師・看護師の不足は大学の経営基盤である附属病院運営に大きな影響を及ぼしています。本学では限られた医師・看護師を北河内二次医療圏に集約することが必須となりました。これらの大学が直面する環境の中で大学法人は中長期計画を策定し、その一部として附属男山病院を医療法人美杉会へ事業譲渡することが決定しました。

私個人は昨年4月に病院長に就任して以来、附属男山病院の経営に携わってきましたが、最大の課題は、事業譲渡をスムーズに実行できる環境を整えること、教職員が移譲後1年間の出向期間を無事に過ごせるように準備をすること、さらに本院が譲渡される情報により教職員の活性化低下・患者の風聞悪化による病院財政上への悪影響を最低限にすることでした。昨年3月に附属男山病院に長年勤務され、患者・職員の信望が厚かった豊病院長および畑埜外科部長が定年退職され、さらに事業譲渡の決定により患者・職員への悪影響をいかに最小限に抑えるかが課題でした。対策として平成22年開院予定の香里病院へ教職員が一丸となって異動することを謳うことで教職員に将来の夢を持たせることができました。副院長には香里病院準備室長の高山康夫先生と、最大の職員数を有する看護部をまとめている友久壽恵子看護部長にお願いし、また香里病院準備室を男山病院内に設置することを常任理事会で承諾していただきました。昨年度に比して病院収入は減少はしましたが、当初に予測していたほどの収入減にならずに終えることができそうです。

医療法人美杉会との交渉は徳永力雄常務理事、岩坂壽二財務担当理事、宇都宮良男総務部長、出水順治財務部長の活動により、かなりの部分を美杉会に譲歩していただき、譲渡後の教職員出向に関しては基本的にはこれまで通りの勤務条件で業務ができるようになりました。大学法人としてはプロジェクトO(オー)を立ち上げ、譲渡に関する諸事項を毎週検討しながら問題を解決してきました。特に心労と健康上の理由で途中退職された加納稔夫事務部長の後を引き継いで実質的に諸課題を処理していただいた馬場文弘管理課長をはじめとする附属男山病院事務職員の奮闘には感謝する次第です。また、移譲後も診療機能を継続することが移譲の条件となりました。これにより、教職員・患者の動揺も最小限に抑えることができ、円滑な譲渡を達成できる目途が立っています。

私個人は新年度から再び附属枚方病院に活動基盤を移して、麻酔科教授、医療・看護担当理事として活動を継続します。移譲後の美杉会男山病院は引き続き大学法人から出向形態をとった現教職員を中心として診療・看護・介護を継続します。長年にわたり附属男山病院を支えていただいた皆様へ感謝を申し上げ、美杉会男山病院の発展を祈って筆を置きたいと思ひます。

卒後臨床研修センター

4月から「キャリア形成」「女性医師支援」の2部門を新設

卒後教育の充実を図るため同センターでは、4月からキャリア形成支援部門と女性医師支援部門を新設しました。

キャリア形成支援部門は、専門研修医確保に向けて大阪医科大学、京都大学を各々主幹校とする大学病院連携型高度医療人養成推進事業プログラムを推進する

こと及びクリニカルシミュレーションの充実、一元化に向け整備、策定します。女性医師支援部門は、働きやすい環境整備や復職支援へ向けて取組みます。

同センターは、従来からある初期臨床研修部門、看護実践支援部門に加えて、キャリア形成支援部門、女性医師支援部門が加わり4部門となりました。

1泊2日の採用時ワークショップ 多彩な講習、親睦も深まる

毎年、臨床研修医採用時オリエンテーション期間中にワークショップを開催していますが、今年も学外講師として聖路加国際病院の福井次矢病院長、NPOささえあい医療人権センターCOMLの辻本好子理事長、帝京大学医学部附属溝口病院の有木永子臨床心理士、岸和田市民病院の亀井有子看護師長を招聘し、現役臨床研修医2名も参加して4月4日(土)～5日(日)の1泊2日で神戸市「スペースアルファ神戸」において実施されました。

講習会では、患者サービス、チーム医療、医療人としてのコミュニケーション、人権問題、医療事故、研修体験談、基本的な臨床能力、指導医と研修医の望ましい



右端福井次矢学外講師
オリエンテーションで活発なグループ討議

関係を、医の倫理などが組込まれており、また、夜には懇親会にて親睦を深めるなど、採用された臨床研修医には大変好評でした。

レジナビフェア2009 in 大阪

本学ブースに多くの医学生

レジナビフェア2009 in 大阪「医学生のための臨床研修指定病院合同セミナー」が3月15日(日)にインテックス大阪で開催されました。卒後臨床研修センターでは、附属枚方病院・附属滝井病院の合同ブースを出展、同センター職員4名に加え現役2年次臨床研修医の高橋弘毅・瀬尾麻位子さんの両名(現 本学専修医)が参加、訪れた医学生に親切に対応(写真)していました。

レジナビフェアとは、医学生が将来、研修したい病院ブースを訪問し、プログラム・処遇などの情報を病院スタッフに直接聞くことができる、いわば会社説明会の臨床研修医版のようなものです。当日は、日本全国から医学生1,000名近くが集まり当ブースへも途切れる間もなく、待ち状態が出るほど訪問がありました。医学生からの質

問には、2人の現役研修医が熱心に生の声を伝え、終日、PR活動を行いました。

平成22年度臨床研修 合同説明会を開催

平成22年度募集のための附属枚方病院・附属滝井病院臨床研修合同説明会が4月11日(土)午後3時から守口ロイヤルパインズホテルで催されました。毎年、学内で行っていましたが今年度から規模を拡大し学外で開催することになったものです。

本学の医学生59名と学外から9名、合計68名が参加、プログラムや待遇等の説明にメモを取るなど熱心に聞き入っていました。山下敏夫学長をはじめ附属枚方病院・附属滝井病院の両病院長、卒後臨床研修センター長、各診療科指導医や現役研修医も出席して、盛会裏に終了しました。

平成21年度臨床研修医は28名

4月採用の平成21年度臨床研修医は、附属枚方病院21名(うち本学卒業生16名)、附属滝井病院7名(同7名)の合計28名を採用しました。昨年度と比べると、附属枚方病院は22名(うち本学卒業生16名)の減、附属滝井病院は、1名(同1名)の減となり、合計では23名の減少となりました。

当センターとしては、臨床研修医の確保対策として、研修医手当の大幅なアップ、研修医募集の説明会、ホームページなどの充実を図り増員を目指しています。



大学情報センター

枚方地区でもパソコン講習会

この機会にスキルアップを

大学情報センター学術部では、学生及び教職員を対象にして、毎年、定期的にパソコン講習会を開催しています。今年度からは、附属枚方病院医療情報部と共催で枚方地区でも講習会を開催致します。学外講師(平成16年度から)による講習会と学術部(平成11年度から)による講習会は、年間開催数が100回を超え、年間参加延べ人数も1,000人を超える実績を残しています。無料で受講できるこの機会を活かしてスキルアップしましょう。皆さんの参加をお待ちしています。

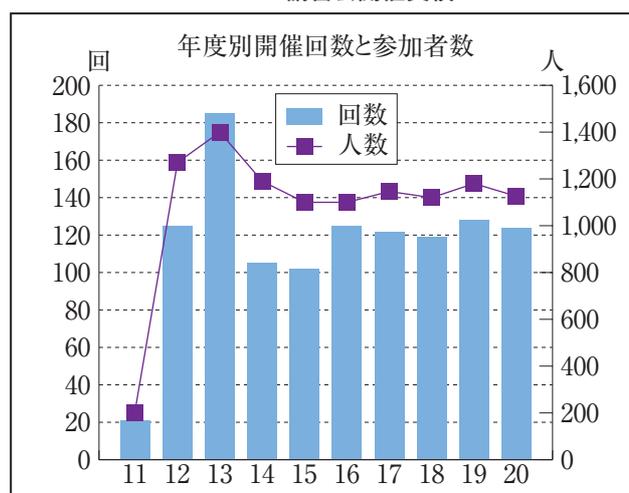
滝井地区: Office 2007 (Vistaパソコン) を中心とした講習会

枚方地区: Office 2003 (XPパソコン) を中心とした講習会

講習会の日程、内容、申込み状況については、

[「http://www.tnoc.kmu.ac.jp/」](http://www.tnoc.kmu.ac.jp/) にアクセスして「パソコン講習会案内」をご覧ください。

パソコン講習会開催実績



平成21年度前期・パソコン講習会(枚方地区)

講習内容	開催日	曜日・時間	場所
Windows基本操作(1回)	5月14日	木曜日 午後5時30分～7時40分	情報ライブラリー室 附属枚方病院1階
Word 2003(6回)	5月21日～6月25日		
Excel 2003(8回)	7月2日～8月27日		
PowerPoint 2003(4回)	9月3日～10月1日		
ポスター作成(1回)	10月8日		

平成21年度・学外講師によるパソコン講習会(滝井地区)

講習内容	開催日	曜日・時間	場所
Windows基本操作(1回)	5月13日～5月15日	水・金曜日 午後6時～8時30分	医学情報処理室 専門部学舎1号館 附属図書館内4階
Word 2007(4回)	5月20日～6月12日		
Excel 2007(5回)	6月17日～7月17日		
セキュリティ(1回)	7月22日～7月24日		
PowerPoint 2007(4回)	7月29日～8月28日		
Acrobat V.9(1回)	9月2日～9月4日		
FileMakerPro V.9(4回)	9月9日～10月9日		

第98回看護師国家試験
合格率 100%

3月26日(木)午後2時よりIMPホールにおいて合格発表があり本学附属看護専門学校平成20年度卒業生71名は全員合格となりました。

附属看護専門学校 合格率 100.0% (全国合格率 89.9%)

附属看護専門学校

入学式挙行 「知識は力」「継続した学ぶ意欲を」

本学附属看護専門学校平成21年度入学式が、4月7日(火)午前10時から同校において、塚原 勇理事長、山下敏夫学長、關 壽人附属専門学校長はじめ教職員、来賓、保護者多数の出席を得て挙行されました。

関 学校長式辞

本日は入学おめでとうございます。関西医科大学附属看護専門学校の教職員を代表して心から歓迎の意を表します。さらに、厳しい選考をパスして本校へのご入学を果たされました、皆さんのこれまでのご苦勞をねぎらい、心から祝福したいと思います。またご列席の保護者の方々にもお慶び申し上げます。ご来賓の皆様方には、本日はまことに忙しいところ、新入生のためにご臨席を賜り、衷心よりお礼申し上げる次第です。

関西医科大学は昭和3年に創立され昨年80周年を迎えた歴史のある私立医科大学であります。その附属看護専門学校である本校も、昭和7年に附属看護婦養成所として開設された、伝統ある看護専門学校です。本年は女子78名、男子6名が入学されましたが、新入生の皆さんは、本日からこの伝統ある関西医科大学の看護学生として、誇りと責任を持って是非、充実した学生生活を過ごしていただきたいと思ひます。

桜満開のこの時期に、皆さんは、希望と情熱を持って看護への道を選択され、ここにお集まりのことと思ひます。看護師は人の役に立ち、人に必要とされる仕事です。人の役に立ち、人に必要とされることは、すなわち自身の存在価値を見出せる職業であり、皆さんはすばらしい仕事を選択されたと思ひます。

これからの3年間、本校で、看護専門科目の講義はもちろん、学内、病院あるいは学外での実習や研修など、多くのカリキュラムを履修していくことになります。その過程で、教職員の先生、先輩や後輩、実習の現場で働く看護師、医師、あるいは患者さんなど多くの人々と出会い、関わっていくことになりますが、看護の知識・技術だけの修得ではなく、人としての道も学び取って、自己の人間形成に努めていただき、是非有能で心優しい看護師に育ってほしいと思ひます。

ただ、看護の道を志した皆さんの当面の目標は、本校を無事卒業し、看護師国家試験に合格することです。この3年間は時間的にかなりハードな学生生活が要求され

ますが、挫(くじ)けず是非頑張ってください。

これから学ばれる皆さんへ、その心構えを私から2点お話しておきたいと思ひます。まず1つは、“知識は力”、“Knowledge is power.”です。これからの講義でたくさんの専門用語が登場しますが、まずは看護・医学に関することを知り、理解し、記憶することです。この知識の蓄積が看護を学ぶ原点であり、今後皆さんの看護能力の大きな礎になります。知識を選択する余地はありません、すべてが必須です。なぜなら皆さんは、人命に関わる看護師になるからです。

第2は”Practice makes perfect”日本語に訳せば“習うより馴れる”となるかもしれませんが、Practiceには実行、訓練、熟練、技量、習慣など多くの意味合いがありますが、私はあえて、継続した学ぶ意欲が、ヒトを成功に導く。言い換えれば、有能な看護師となれる。としたいと思ひます。常に自ら学ぶ意欲を持ち続けていただきたいと思ひます。反復しますが、なぜなら看護師は人命に関わる仕事だからです。

本日から、本校の教職員一同は、精一杯皆さんが良き看護師になれるよう、導き、支えます。保護者の皆様方にも、是非、新入生の皆さんの志が成就されますよう、時には厳しく、時にはやさしく見守って頂きたいと存じます。

最後になりますが、3年後の春には関西医科大学附属病院で同僚としてともに働けることを願ひ私の式辞といたします。＝写真は、代表して挨拶する新入生



平成21年度入学者名簿 (第30期生)

1年A組 42名

1年B組 42名

インターネット上での氏名公開は控えさせていただきます

キャンパス ニュース

学生健康管理室

「学校保健法」改め「学校保健安全法」 ワクチン接種は必ずしましょう

平成21年4月から「学校保健法」から『学校保健安全法』に改名されました。

今回の改名・改正は、メンタルヘルスに関する問題やアレルギー疾患を抱える児童・生徒・学生(以後学生等と略す)の増加、学生等が被害者となる事件・事故・災害等の発生、また、学校給食を役割モデルとする食育の重要性など近年の学生等の健康・安全を取り巻く状況の変化に対応する内容となっています。

平成11年に新感染症法が施行され、伝染病という言葉は、患者・感染者の人権擁護の立場から感染症法の中では使われなくなっていました。しかし、学校保健法の管理を受ける学校伝染病はそのままになっており、今回の学校保健法から学校保健安全法への改正に伴い学校伝染病から学校感染症になり、ようやく伝染病から感染症へ改められました。

「学校において予防すべき感染症」(学校保健安全法施行規則第18条)つまり「学校感染症」は第一種・第二種・第三種に分類されています。第二種は、放置すれば学校で流行してしまう可能性のある飛沫感染による感染症でインフルエンザや4種感染症(麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎)・百日咳・咽頭結膜熱・結核が対象となります。(結核は、結核予防法が感染症法に統合され、学校感染症では二種に分類されています)

大学は、学生の集団生活の場であり感染症が流行しやすい環境下にあります。また、本学は医学部であり実習等で直接患者さんと係わる機会が多くあります。患者さんへの感染、患者さんからの感染を防ぐためにもワクチン接種等予防対策が重要となります。

これまで感染症対策として結核感染予防対策をはじめB型肝炎予防対策、また、4種感染症対策等に積極的に取り組んできました。4種感染症は、平成20年夏には全学生が抗体を有するか陰性または擬陽性のものについてはワクチン接種を終了しています。

しかし、その後、ワクチンの2回接種や特に麻疹においては抗体価が一桁のものはワクチン追加接種が推奨され、さらに接種後に抗体検査による確認の必要性が求められるようになりました。

そこで、本学では、平成21年度の4種感染症予防対策として全学年を対象に前述のように対策を強化することになりました。〔抗体検査は、すべてIgG(EIA法)指定、ワクチン接種および抗体検査の証明書提出〕。2回目接種・追加接種・抗体検査による確認等該当者には後日お知らせする予定です。

ご不明な点がありましたら学生健康管理室(内線2242)または学務課(内線2231、2241)にお問い合わせください。

※平成21年度から、結核予防対策としてこれまでのツベルクリン反応検査からQFT検査に変更になりました。
(QFT検査……クウォンティフェロン® TG-2)

学生相談室

一人で悩まず気軽に相談を 火曜と金曜の正午～午後6時

環境変化や刺激に富んだ学生生活において、様々な問題や不安に直面する場面が、学生には多々あります。学生相談室は、そのような時に学生一人で悩まず、気軽に相談できる場所であるように、日々心がけています。

また、全ての学生が資格試験を目指しているという医学部の性格上、一般の大学生に比べても心身の負担は大きいものと考えられます。同時に年齢的には一部の精神疾患のおきやすい時期でもあるため、心身両面から早期に適切な対応することが重要でもあります。このように学生相談室では、将来、医師を目指す学生達の、健全な育成と、学生生活の充実を目指し、サポートに取り組んでいます。

<ご利用案内>

・相談希望の方は、メールや電話で予約することができます。(問合せ先は、右記を参照下さい)

- ・直接学生相談室に来ることも可能ですが、面接中などお会いできない場合がありますので、なるべく事前の予約をお勧めします。
- ・緊急時は直接来室するか、もしくはお電話でご相談ください。
- ・本人が来室できないときは、ご家族や友達に来室していただくこともできます。
- ・相談は無料です。
- ・話の内容、プライバシーは守られます。

<開室日時> 毎週火曜日・金曜日正午～午後6時

<場 所> 附属滝井病院5号館(南館)2階
学生相談室(臨床講堂控室)
(臨床講堂の向かいの扉を入れて、すぐ左側にある部屋です)

<連絡先> soudan@takii.kmu.ac.jp
(開室時間に確認のため返事が遅れる場合があります)
内線2802(不在時は学生健康管理室
[内線2242]へ)

<担当者> 内藤ゆみ(臨床心理士)

メディア情報

教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。
(平成20年11月12日～平成21年4月20日)

齊藤 幸子 病院助教 (精神神経科学講座)	読売テレビ 11月12日(水)	番組名 情報ライブ ミヤネ屋 内容 「強迫性障害とは」
里井 壯平 講師 (外科学講座)	web掲載 1月21日(木)～	がん情報最前線 http://clinicalpath.jp/saizensen/gakkai/index.html 「当院における消化器癌診療と地域連携」と題し第9回日本クリニカルパス学術集会での発表が取り上げられました
有田 清三郎 教授 (教養部 数学)	京都新聞 2月3日(火)	音声をパソコン画面上の文字に変え、医師と耳が聞こえにくい患者との意思疎通を図る取り組みが掲載されました。医師がマイクを通じて話すパソコン内で文字に変換しモニターに表示されます。

メディア情報をお待ちしています

教職員の方々がメディアに登場された場合に掲載させていただきます。このコーナーは、皆様からの情報提供によって構成されます。テレビ出演が予定されている時は、前もって下記の情報連絡先までお願いします。
なお、このメディア情報欄に紹介するのは、朝日、産

経、日経、毎日、読売の5大紙およびNHK・毎日・朝日・関西・読売の各テレビ局、主要な月刊誌、週刊誌等に上げられたものに限らせていただきます。

情報連絡先

総務部広報課 電話 06-6993-9672 (内線 2138)
E-mail: kmuinfo@takii.kmu.ac.jp

同窓会

同窓会費の納入 お忘れではございませんか？

「いそがしさにまぎれて、同窓会費の納入をつい忘れていたら、たまりにたまって遂に何十万円にも達してしまった…」という方がかなりいらっしゃるようです。

これを一度に払い込むことは、誰しも大変な負担になります。

そこで、例えば1万円ずつを何回かに分けて分納していただく方法をおすすめしております。どうかよろしくお願い申し上げます。

同窓会誌「おとづれ」は、同窓会費納入のいかんにかかわらず、常に現存同窓生全員に配布されております。「おとづれ」の出版に要する費用は、印刷費・郵送費等を含めて年間約500万円を要しますが、これも同窓会費によってまかなわれています。

同窓会誌の発行のほかに、同窓生への研究助成、学生援助、関西医科大学への支援等々同窓会事業をご承知のように多岐にわたっております。そしてその費用はすべて同窓会費によってまかなわれています。

この同窓会費の未納額が、現在約9,330万円にも及び、この分ですと1億円に達するのも時間の問題と考えら

れる現状となっています。

平成21年度末現在

同窓生数 7,307名(現存 5,899名)

年度会費(1～44回生)未納件数 517件約4,880万円

終身会費(45～77回生)未納件数 280件約4,450万円

これだけの未納額を、すべて納入していただければ「会費値上げ」の必要もなく、悠々と会の運営が可能となることが考えられます。

母校関西医科大学の発展をしっかりとサポートできる実力ある関西医科大学同窓会であるために、なにとぞ協力くださいますようお願い申し上げます。

関西医科大学同窓会

本部 〒570-0078 大阪府守口市平代町8-27

加多乃会館内

TEL 06-6993-0121

FAX 06-6991-6221

E-mail: dousouka@takii.kmu.ac.jp

お知らせ

市民公開講座開催報告

附属滝井病院

開催日：平成21年2月7日(土)
 時間：午後2時～同4時30分
 会場：守口文化会館エナジーホール

- 講演：
- ①「メタボリックシンドロームの予防と治療」
 病院長 高橋伯夫
 - ②「パーキンソン病の初期症状」
 神経内科部長 日下博文
 - ③「肝臓病の基礎知識/肝がんにならないために」
 消化器肝臓内科部長 關 壽人

参加者：204名

附属男山病院

開催日：平成21年1月17日(土)
 時間：午後2時～同4時30分
 会場：八幡市立生涯学習センター

- 講演：
- ①「鼠径ヘルニア(脱腸)って何？」
 ～症状と治療について～
 外科部長 小倉徳裕
 - ②「動脈硬化性疾患の予防」
 副病院長 高山康夫

参加者：131名

新型インフルエンザについて

国内感染が確認され、世界的流行が懸念されている新型インフルエンザに関し、本学では教職員、医学部学生に対し「フェーズ段階別の注意」「感染予防対策」「臨時休講」「病欠の扱い」「海外渡航」「感染した可能性のある時」などの情報を文書やホームページでお知らせしています。大学として既に5月18日から22日まで全学休講としましたが、更に新たな措置を決定した場合には、ホームページに掲載しますので、常にチェックをお願いします。

なお、枚方と滝井両附属病院にこのほど、発熱外来を設置、地域の皆様の対応にあたっています。感染防止、予防には、医療人として自覚をもって行動しましょう。

手洗いやうがいの励行は勿論ですが、十分な休養をとるなど日頃からの健康管理と咳エチケット(マスク・ハンカチや袖口でふさぐ)の励行も心掛けてください。

「マスク、手洗い、うがい」の豆知識

□マスク

- ①マスクと顔面の間に隙間があるとまったく意味がありません。
- ②着用後10時間程度しか効果がありません。
- ③一般マスクのうち少し高機能の付加されたものを多用することをお勧めします。

□手洗い

- ①手の甲、手のひら、親指、指の付け根、指と指の間、手首までしっかり石鹸で洗ってください。
- ②15秒のもみ洗いが細菌を洗い流すのに効果的。

□うがい

- ①水、うがい薬を希釈したもの、お茶も効果あり。
- ②のどの奥まで液が回るように何回か繰り返す。

「関西医科大学 広報」年4回発行
原稿、ご意見お寄せください

広報誌は、昨春の創刊号(5月25日)を皮切りに、創立80周年記念号(6月25日)、Vol.2(8月30日)、Vol.3(12月1日)、Vol.4(今年1月30日)と20年度を計画通り発行することができました。そして今回、Vol.5をお届けします。

この広報誌は、関西医科大学と教職員、学生、同窓生、保護者を結ぶコミュニケーションツールの一つです。今後も年4回、季刊号として発行する予定です。皆様からの記事の提供、企画、ご意見などありましたら、広報課まで連絡よろしくごお願い致します。

編集後記

新緑の候、5月は全てにおいて躍動を感じさせる季節。大学は新入生が未来への希望を抱き入学、附属病院には、看護師さんや医療技術職の方など多くの新人が社会人としてのスタートを切り、仕事への意欲をみなぎらせます。ところが、今年の5月は、様相が一変。新型インフルエンザのせいです。世界中に蔓延する中、国内感染が最初に確認されたのは近畿。電車や職場内はマスク姿が目につきます。感染予防には、マスクが一番と言われていいます。公衆衛生学の専門の先生によると「周りで3分の2の人がマスクをすれば、ウイルスの拡大は確実に防げる」と防御の重要性を話されます。

さて、今回の広報「Vol.5」は入学式をトップ写真と2.3面に取り上げ、また法人の重要指針である平成21年度事業計画の要旨抜粋を掲載しました。法人がこれから目指す方向が理解できると思います。さらに、この時期多くの教授が就退任します。退任される方には、大学に対する提言を、就任教授には、抱負を語ってもらいました。是非、ご一読ください。

最後に、広報課に関する事を一言。今の時代、ホームページの充実は、避けて通れません。常に新しいネタを載せる日々の更新は避けられないことです。この4月、新戦力が加わり、心強い次第です。早速、新型インフルエンザ情報提供に対応しています。今後ともご指導、ご支援よろしくごお願い致します。(M.N)

関西医科大学広報 Vol.5

発行 学校法人 関西医科大学
 編集 総務部 広報課

〒570-8506 大阪府守口市文園町10-15
 Tel 06-6992-1001 (代表)
 Fax 06-6993-5221

http://www.kmu.ac.jp/
 E-mail kmuinfo@takii.kmu.ac.jp
 平成21年5月28日(木)発行